

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2022年1月20日(20.01.2022)



(10) 国際公開番号

WO 2022/014373 A1

(51) 国際特許分類:
B65D 85/07 (2017.01) A61F 13/15 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2021/025127

(22) 国際出願日: 2021年7月2日(02.07.2021)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2020-119716 2020年7月13日(13.07.2020) JP

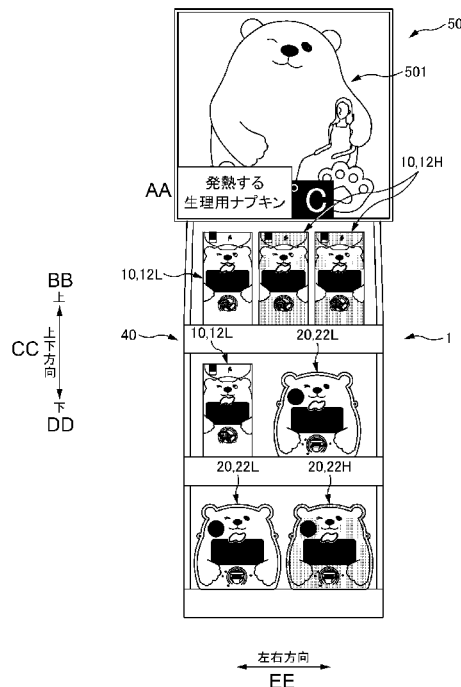
(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).

(72) 発明者: 林 俊 久 (HAYASHI, Toshihisa); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 山本 なるみ (YAMAMOTO, Narumi); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 内田 祥平(UCHIDA, Shohei); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 渡子 直紀(TONOKO, Naoki); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(54) Title: PACKAGE GROUP, ADVERTISING MEDIUM, METHOD OF SHOWCASING PACKAGE GROUP, AND UTENSIL

(54) 発明の名称: パッケージ群、広告媒体、パッケージ群の陳列方法、及び、什器

[図13]



AA Heat-generating sanitary napkin
BB Up
CC Up/down direction
DD Down
EE Left/right direction

(57) Abstract: A package group (1) comprising: a first package (10) provided with a first absorbent article (11) and a first bag body (12) accommodating the same; and a second package (20) provided with a second absorbent article (21) that has a different product form from that of the first absorbent article (11) and a second bag body (22) for accommodating the same, wherein the first absorbent article (11) and the second absorbent article (21) have a functional agent (30) in common and/or a design in common, the first bag body (12) and the second bag body (22) have the same brand name

(74) 代理人: 一色国際特許業務法人 (ISSHIKI & CO.); 〒1080073 東京都港区三田三丁目 1 1 番 3 6 号三田日東ダイビル Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, IT, JO, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第21条(3))

and same sub-brand name, and the outer appearance of the first bag body (12) and the outer appearance of the second bag body (22) are different.

(57) 要約: 第1吸収性物品(11)及びそれを収容する第1袋体(12)を備える第1パッケージ(10)と、第1吸収性物品(11)とは製品形態が異なる第2吸収性物品(21)及びそれを収容する第2袋体(22)を備える第2パッケージ(20)とを有するパッケージ群(1)であって、第1吸収性物品(11)及び第2吸収性物品(21)は共通する機能剤(30)及び共通する図柄のうちの少なくとも一方を有し、第1袋体(12)及び第2袋体(22)は同一のブランド名及び同一のサブブランド名を有し、第1袋体(12)の外観と、第2袋体(22)の外観と、が異なる。

明 細 書

発明の名称：

パッケージ群、広告媒体、パッケージ群の陳列方法、及び、什器

技術分野

[0001] 本発明は、パッケージ群、広告媒体、パッケージ群の陳列方法、及び、什器に関する。

背景技術

[0002] 特許文献1には、成人の身体サイズ、形状及タイプに応じた異なるサイズの吸収性物品をそれぞれ含むパッケージの群が開示されている。このようなパッケージの群によれば、幅広い範囲の消費者に適合する吸収性物品を提供できる。

[0003] また、特許文献1では、パッケージの群が同一のブランド名やサブブランド名を有し、パッケージの群が大規模ラインナップの一部であることを伝える類似のパッケージ要素を有して市販されるとしている。具体的には、あるパッケージの群は、同一のブランド（例：D e p e n d）と下位のブランド（例：f o r W o m e n U n d e r w e a r）を有し、濃い緑系のフィルムバッグに包装されるとしている。異なるパッケージの群は、前記群と同一のブランド（例：D e p e n d）を有するが、異なる下位のブランド（例：S i l h o u e t t e F o r W o m e n）を有し、濃いえび茶色の箱に包装されるとしている。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：特許第6651503号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] 吸収性物品の一例として、生理用ナプキンが挙げられる。生理用ナプキンは、ユーザーの用途や使用タイミングに応じて、パッド型ナプキン、ショ-

ツ型ナプキン、昼用ナプキン、夜用ナプキン、羽根付きナプキン等、製品形態の異なる種々の商品が提供されている。

[0006] また、生理用ナプキン（吸収性物品）に対して、吸収性能だけでなく、その他の機能や高いデザイン性が求められてきている。一般に、同じ生理用ナプキンに分類される商品には、同一のブランド名が付与され、各機能やデザインに応じて異なるサブブランド名が付与される。つまり、同じ機能やデザインを有する生理用ナプキンは、製品形態が異なる場合にも、同一のサブブランド名が付与されることがある。そのため、特許文献1のように、同一のサブブランド（下位のブランド）を有するパッケージの群を、例えば濃い緑系のフィルムバッグ等、同じ外観となる包装にしまうと、ユーザーは所望する製品形態のパッケージを容易に選択することができなくなってしまう。

[0007] そこで、本発明は、上記のような問題を鑑みてなされたものであって、ユーザーが、所望するサブブランドであり、かつ、所望する製品形態である吸収性物品のパッケージを容易に選択できるようにすることを目的とする。

課題を解決するための手段

[0008] 上記目的を達成するための主たる発明は、第1吸収性物品、及び、前記第1吸収性物品を収容する第1袋体を備える第1パッケージと、前記第1吸収性物品とは製品形態が異なる第2吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品を収容する第2袋体を備える第2パッケージと、を有するパッケージ群であって、前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品は、共通する機能剤、及び、共通する図柄のうちの少なくとも一方を有し、前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、同一のブランド名、及び、同一のサブブランド名を有し、前記第1袋体の外観と、前記第2袋体の外観とが、異なることを特徴とするパッケージ群である。

本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

発明の効果

[0009] 本発明によれば、ユーザーが、所望するサブブランドであり、かつ、所望する製品形態である吸収性物品のパッケージを容易に選択できる。

図面の簡単な説明

[0010] [図1]パッド型ナプキン11を収容する第1パッケージ10の斜視図である。

[図2]開封状態の第1パッケージ10の斜視図である。

[図3]展開状態におけるパッド型ナプキン11の個包装体13を肌側から見た平面図である。

[図4]パッド型ナプキン11を非肌側から見た平面図である。

[図5]パッド型ナプキン11の概略断面図である。

[図6]第2パッケージ20の正面図である。

[図7]第2パッケージ20の断面図である。

[図8]開封状態の第2パッケージ20の概略斜視図である。

[図9]図9Aはショーツ型ナプキン21の概略正面図であり、図9Bはショーツ型ナプキン21の個包装体23の平面図である。

[図10]図10Aは展開且つ伸長状態であるショーツ型ナプキン21の概略平面図である。図10Bはショーツ型ナプキン21の概略断面図である。

[図11]図11A及び図11Bは、温感剤30の強度が異なるパッド型ナプキン11を収容する第1パッケージ10を示す図である。

[図12]図12A及び図12Bは、温感剤30の強度が異なるショーツ型ナプキン21を収容する第2パッケージ20を示す図である。

[図13]パッケージ群1を陳列する棚40を示す図である。

発明を実施するための形態

[0011] 本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

第1吸収性物品、及び、前記第1吸収性物品を収容する第1袋体を備える第1パッケージと、前記第1吸収性物品とは製品形態が異なる第2吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品を収容する第2袋体を備える第2パッケージと、を有するパッケージ群であって、前記第1吸収性物品、及び、前記第2

吸収性物品は、共通する機能剤、及び、共通する図柄のうちの少なくとも一方を有し、前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、同一のブランド名、及び、同一のサブブランド名を有し、前記第1袋体の外観と、前記第2袋体の外観とが、異なることを特徴とするパッケージ群。

[0012] このようなパッケージ群によれば、同一のサブブランドのパッケージ群の中から、袋体の外観の違いによって、ユーザーは、所望するサブブランドであり、かつ、所望する製品形態である吸収性物品のパッケージを容易に選択できる。

[0013] かかるパッケージ群であって、前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、同色の領域を有することを特徴とするパッケージ群。

[0014] このようなパッケージ群によれば、第1袋体及び第2袋体に統一感を持たせることができ、ユーザーは、所望するサブブランドのパッケージ群を容易に選択できる。また、袋体の色味が同じであっても、外観が異なるため、ユーザーは、所望する製品形態である吸収性物品のパッケージを容易に選択できる。

[0015] かかるパッケージ群であって、前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品は、前記共通する機能剤を有し、前記第1吸収性物品は、第1低機能吸収性物品と、前記第1低機能吸収性物品に比べて前記機能剤の配置量が多い第1高機能吸収性物品とを有し、

前記第1低機能吸収性物品を収容する第3袋体、及び、前記第1高機能吸収性物品を収容する第4袋体は、外観は同じであるが、異色の領域を有することを特徴とするパッケージ群。

[0016] このようなパッケージ群によれば、袋体の色味によって機能剤の配置量を判断できるため、ユーザーは、所望する機能剤の強さである吸収性物品のパッケージを容易に選択できる。

[0017] かかるパッケージ群であって、前記第2吸収性物品は、第2低機能吸収性物品と、前記第2低機能吸収性物品に比べて前記機能剤の配置量が多い第2高機能吸収性物品とを有し、前記第1低機能吸収性物品を収容する前記第3

袋体、及び、前記第2低機能吸収性物品を収容する第5袋体は、外観は異なるが、同色の領域を有し、前記第1高機能吸収性物品を収容する前記第4袋体、及び、前記第2高機能吸収性物品を収容する第6袋体は、外観は異なるが、同色の領域を有することを特徴とするパッケージ群。

[0018] このようなパッケージ群によれば、製品形態（外観）が異なるパッケージにおいても、機能剤の配置量の強弱と袋体の色味の違いの関係が同じである。そのため、ユーザーは、異なる製品形態のパッケージを選択する際にも、所望する機能剤の強さである吸収性物品のパッケージを容易に選択できる。

[0019] かかるパッケージ群であって、前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、前記第1吸収性物品及び前記第2吸収性物品に関する情報を有するWebページにアクセスすることと、前記パッケージ群を販売するWebページにアクセスすることと、複数の前記第1パッケージ及び複数の前記第2パッケージを個別に識別することと、のうちの少なくとも1つが可能なQRコードを有していることを特徴とするパッケージ群。

[0020] このようなパッケージ群によれば、ユーザーに吸収性物品に関する情報を提供したり、吸収性物品の購入手段を増やしたり、第1パッケージ及び第2パッケージを個体毎に管理したりすることができる。

[0021] かかるパッケージ群であって、前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品は、前記共通する機能剤を有し、前記第1吸収性物品を個別に包装する包装材は、前記第1袋体に比べて前記機能剤の揮発を抑制することができ、前記第2袋体は、前記第2吸収性物品を個別に包装する包装材に比べて前記機能剤の揮発を抑制することができ、かつ、前記第2袋体の開封後に再封止可能な封止部を有することを特徴とするパッケージ群。

[0022] このようなパッケージ群によれば、第1吸収性物品及び第2吸収性物品における機能剤の揮発を抑制できる。

[0023] かかるパッケージ群であって、前記第1袋体が収容する第1吸収性物品の数に比べて、前記第2袋体が収容する第2吸収性物品の数の方が少ないことを特徴とするパッケージ群。

- [0024] このようなパッケージ群によれば、第2袋体の開閉回数が少なくなる。そのため、第2吸収性物品の個包装体における機能剤の揮発抑制効果が小さくとも、第2吸収性物品の機能剤の揮発を抑制できる。
- [0025] かかるパッケージ群であって、前記第1吸収性物品は、着用者が下着に貼付して使用するパッド型の吸収性物品であり、前記第2吸収性物品は、着用者がはいて使用するパンツ型の吸収性物品であることを特徴とするパッケージ群。
- [0026] このようなパッケージ群によれば、パッド型の吸収性物品は個包装体の状態で持ち運びされる確率が高いため、個包装体における機能剤の揮発抑制効果を高くすることで、第1吸収性物品の機能剤の揮発を抑制できる。
- [0027] かかるパッケージ群であって、前記第1吸収性物品は、昼用の吸収性物品であり、前記第2吸収性物品は、夜用の吸収性物品であることを特徴とするパッケージの群。
- [0028] このようなパッケージ群によれば、昼用の吸収性物品は個包装体の状態で持ち運びされる確率が高いため、個包装体における機能剤の揮発抑制効果を高くすることで、第1吸収性物品の機能剤の揮発を抑制できる。
- [0029] かかるパッケージ群であって、前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、共通する第1図柄を有し、前記第1図柄は、動物図柄、キャラクター図柄、及び、前記共通する機能剤の機能を想起させる想起図柄のうちの少なくとも1つを有することを特徴とするパッケージ群。
- [0030] このようなパッケージ群によれば、動物図柄、キャラクター図柄、及び想起図柄は、ユーザーの印象に残りやすい。そのため、これらの図柄を袋体に設けることで、ユーザーは、所望するサブブランドのパッケージ群を容易に選択できる。
- [0031] かかるパッケージ群であって、前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品の少なくとも一方は、前記第1図柄と共通する図柄であって、前記少なくとも一方の吸収性物品の非肌面側から視認可能な第2図柄を有することを特徴とするパッケージ群。

[0032] このようなパッケージ群によれば、ユーザーが吸収性物品の装着時や使用中に第1図柄と共通する第2図柄を視認することになり、その図柄の印象が刷り込まれる。そのため、ユーザーは、小売店等において、第1図柄を有する袋体、つまり、同じサブブランドであるパッケージ群を容易に選択できる。

[0033] かかるパッケージ群であって、前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品の少なくとも一方は、前記第1図柄と共通する図柄であって、前記少なくとも一方の吸収性物品の肌面側から視認可能な第3図柄を有することを特徴とするパッケージ群。

[0034] このようなパッケージ群によれば、ユーザーが吸収性物品の装着時や使用中に第1図柄と共通する第2図柄を視認することになり、その図柄の印象が刷り込まれる。そのため、ユーザーは、小売店等において、第1図柄を有する袋体、つまり、同じサブブランドであるパッケージ群を容易に選択できる。

[0035] かかるパッケージ群であって、前記第1袋体は、前記第1吸収性物品を示す第1製品図柄を有し、前記第2袋体は、前記第2吸収性物品を示す第2製品図柄を有し、前記第1袋体が有する前記第1図柄の面積は、前記第1製品図柄の面積よりも大きく、前記第2袋体が有する前記第1図柄の面積は、前記第2製品図柄の面積よりも大きいことを特徴とするパッケージ群。

[0036] このようなパッケージ群によれば、第1図柄が大きく目立つため、ユーザーは、小売店等において、第1図柄を有する袋体、つまり、同じサブブランドであるパッケージ群を容易に選択できる。

[0037] かかるパッケージ群であって、前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、上下方向、及び、左右方向を有し、前記第1図柄は、前記動物図柄、又は、前記キャラクター図柄を有し、前記第1袋体は、前記第1吸収性物品を示す第1製品図柄を有し、前記第2袋体は、前記第2吸収性物品を示す第2製品図柄を有し、前記第1製品図柄、及び、前記第2製品図柄は、前記第1図柄の重心位置よりも下方に配置されていることを特徴とするパッケージ群。

- [0038] このようなパッケージ群によれば、股下部に着用して使用される吸収性物品が収容されていることを、ユーザーが直感的に認識しやすくなる。
- [0039] かかるパッケージ群であって、前記第1吸収性物品は、着用者が下着に貼付して使用するパッド型の吸収性物品であり、前記第2吸収性物品は、着用者がはいて使用するパンツ型の吸収性物品であり、前記第1袋体に比べて、前記第2袋体の方が、前記第1図柄の面積を正面の面積で除した値が大きいことを特徴とするパッケージ群。
- [0040] このようなパッケージ群によれば、パッド型の吸収性物品に比べて、パンツ型の吸収性物品の方が、平面形状が大きい。そのため、第2袋体において第1図柄の面積比率を高くすることで、ユーザーは直感的に、パンツ型の吸収性物品が収容されていることを認識しやすくなる。
- [0041] かかるパッケージ群であって、前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、上下方向、及び、左右方向を有し、前記第1吸収性物品は、着用者が下着に貼付して使用するパッド型の吸収性物品であり、前記第2吸収性物品は、着用者がはいて使用するパンツ型の吸収性物品であり、前記第1袋体の方が、前記第2袋体に比べて、前記上下方向の長さを前記左右方向の長さで除した値が大きいことを特徴とするパッケージ群。
- [0042] このようなパッケージ群によれば、パッド型の吸収性物品の方が、パンツ型の吸収性物品に比べて、縦長の形状である。そのため、第1袋体を縦長の形状にすることで、ユーザーは直感的に、パッド型の吸収性物品が収容されていることを認識しやすくなる。
- [0043] かかるパッケージ群の広告媒体であって、前記パッケージ群を陳列する什器に設置可能な広告媒体と、Web上において前記パッケージ群を広告する広告媒体と、のうちの少なくとも一方は、前記第1図柄と共通する図柄を有することを特徴とする広告媒体。
- [0044] このような広告媒体によれば、袋体に設けられた第1図柄と共通する図柄によって、ユーザーは、小売店等において所望するサブブランドであるパッケージ群を容易に選択できる。

[0045] かかるパッケージ群の陳列方法であって、前記パッケージ群を陳列する什器は、上下方向、及び、左右方向を有し、前記上下方向における前記第1パッケージと前記第2パッケージの間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、前記上下方向に前記第1パッケージと前記第2パッケージを並べる、又は、前記左右方向における前記第1パッケージと前記第2パッケージの間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、前記左右方向に前記第1パッケージと前記第2パッケージを並べること特徴とするパッケージ群の陳列方法。

[0046] このようなパッケージ群の陳列方法によれば、ユーザーが、所望するサブブランドであるパッケージ群を容易に選択できる。また、同じサブブランドのパッケージが集まって陳列されていても、製品形態によって袋体の外観が異なるため、ユーザーは、所望する製品形態である吸収性物品のパッケージを容易に選択できる。

[0047] かかるパッケージ群を陳列する什器であって、前記什器は、上下方向、及び、左右方向を有し、前記上下方向における前記第1パッケージと前記第2パッケージの間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、前記上下方向に前記第1パッケージと前記第2パッケージが並べられる、又は、前記左右方向における前記第1パッケージと前記第2パッケージの間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、前記左右方向に前記第1パッケージと前記第2パッケージが並べられること特徴とする什器。

[0048] このような什器によれば、パッケージ群が集められて陳列されるので、ユーザーが、所望するサブブランドであるパッケージ群を容易に選択できる。また、同じサブブランドのパッケージが集まって陳列されていても、製品形態によって袋体の外観が異なるため、ユーザーは、所望する製品形態である吸収性物品のパッケージを容易に選択できる。

[0049] 以下、生理用ナプキンを収容するパッケージ群を例に挙げて実施形態を説明する。

パッケージ群1は第1パッケージ10と第2パッケージ20とを有する。

第1パッケージ10は、パッド型の生理用ナプキン11（以下「パッド型ナプキン」とも呼ぶ）と、パッド型ナプキン11を収容する第1袋体12を備える。第2パッケージ20は、ショーツ型の生理用ナプキン21（以下「ショーツ型ナプキン」とも呼ぶ）と、ショーツ型ナプキン21を収容する第2袋体22を備える。

[0050] 以下の説明では、パッド型ナプキン11及びショーツ型ナプキン21を合わせてナプキン11、21と呼び、第1パッケージ10及び第2パッケージ20を合わせてパッケージ10、20と呼び、第1袋体12及び第2袋体22を合わせて袋体12、22と呼ぶ場合がある。

[0051] ===第1パッケージ10の基本構成===

図1は、パッド型ナプキン11を収容する第1パッケージ10の斜視図である。図2は、開封状態の第1パッケージ10の斜視図である。図3は、展開状態におけるパッド型ナプキン11の個包装体13を肌側から見た平面図である。図4は、パッド型ナプキン11を非肌側から見た平面図である。図5は、パッド型ナプキン11の概略断面図である。

[0052] パッド型ナプキン11（図3）は、互いに直交する長手方向、幅方向、及び厚さ方向を有する。長手方向において着用者の腹側となる側を前側とし、着用者の背側となる側を後側とする。厚さ方向において着用者の肌に当接する側を肌側とし、その反対側を非肌側とする。

[0053] また、パッド型ナプキン11（図5）は、排泄液を吸収保持する吸収体111と、吸収体111よりも肌側に配された液透過性の肌側シート112と、吸収体111と肌側シート112の間に配された液透過性の中間シート113と、吸収体111よりも非肌側に配された液不透過性の非肌側シート114と、パッド型ナプキン11の肌側面における幅方向の両側部に配された一对のサイドシート115と、前側シート116を有する。また、パッド型ナプキン11は、幅方向の外側に突出した一对のウィング部1wを有する。

[0054] パッド型ナプキン11は、着用者が下着の内面に貼付して使用するタイプの生理用ナプキンである。そのため、図4に示すように、パッド型ナプキン

11の非肌側面には、接着剤が塗布された粘着部であるずれ止め部117が設けられている。

[0055] 前側シート116は、長手方向において吸収体111よりも前側に延出して配されており、その前端部から後端部に向かって幅が狭くなった略三角形の平面形状を成している。前側シート116は、3枚のシートが厚さ方向に積層されて構成されており、中間シート113及び吸収体111より非肌側であり、非肌側シート114より肌側に配されている。ただし、パッド型ナプキン11の構成は図示するものに限定されない。例えば、ウィング部1wを有さないナプキンであったり、前側シート116を有さないナプキンであったりしてもよい。

[0056] 本実施形態のパッド型ナプキン11は、前側シート116を有するため、一般的なナプキン1の形状に比べて前側に長く幅広い形状となっている。そのため、ナプキン1の前方領域で着用者の下腹部を覆うことができ、着用者の下腹部を温めることができる。

[0057] さらに、本実施形態のパッド型ナプキン11には、温感剤30が配置されている。具体的には、図5に示すように、3枚の前側シート116のうちの最も肌側に位置する前側シート116Aの肌側面の全域に温感剤30が配置されている。また、肌側シート112の非肌側面のうち幅方向の中央部（幅20mm程度）の両側の長手方向に沿った一对の帯状の領域（不図示）に、温感剤30が配置されている。この帯状の領域は、パッド型ナプキン11の長手方向の前方部と中央部に配置されている。温感剤30の配置は、噴霧法やローラーコート法、刷毛塗り法等の各種公知の塗布方法で行ったり、シートを浸漬したりする方法や、粒子状の剤をシートの繊維に混在させる方法等が挙げられる。

[0058] 温感剤30は、例えば、TRPチャネル（温度受容器（温熱知覚受容器））を活性化する温感成分と、溶媒成分とを含むものを例示できる。パッド型ナプキン11に温感剤30が配置されていることで、着用者のTRPチャネルが刺激される。その結果、交感神経系を介して、温感剤30の接触部分が

ら熱が生じ、温感剤 30 の接触部分の温度を上昇させることが期待できる。本実施形態では、温感剤 30 が着用者の肌と直接接触する場所に配置されていないが、着用時に温感剤 30 が溶出したり揮発したりすることで、着用者の肌に到達する。このように温感成分自体が発熱しない温感剤 30 を用いることで、低温やけどが起こり難く好ましいが、温感成分自体が発熱する温感剤であってもよい。

[0059] 着用者の下腹部や股下部に対応するパッド型ナプキン 11 の領域に温感剤 30 が配置されていることで、着用者の子宮に近い部分が温められる。よって、着用者の生理痛を緩和したり、月経前症候群や冷え性、更年期障害などの症状を軽減したりすることが期待される。

[0060] パッド型ナプキン 11 は個別に包装された個包装体 13 の状態で第 1 袋体 12 に收容される。個包装体 13 は、パッド型ナプキン 11 と、パッド型ナプキン 11 を包装する包装材 131 と、止着テープ 132 を備える。図 3 に示すように、包装材 131 の上に配置されたパッド型ナプキン 11 が、長手方向に沿う折り部 F1, F2 と、幅方向に沿う折り部 F3, F4 にて包装材 131 と共に折り畳まれて、個包装体 13 が形成される。ただし、個包装体 131 の折り畳み方法は特に限定されず、例えば、幅方向に沿う折り部 F3, F4 のみで折り畳まれてもよいし、包装材 131 とは別にパッド型ナプキン 11 のみで折り畳まれてもよい。

[0061] 図 1 に示すように、第 1 袋体 12 は、略直方体形状であり、互いに直交する上下方向、左右方向、及び、前後方向を有する。第 1 袋体 12 は 6 面有し、前後方向における前側を、第 1 袋体 12 の正面 12A が位置する正面側とし、その反対側を背面側とする。第 1 袋体 12 のうち、ブランド名 121 やサブブランド名 122 が最も大きく配置されている面を正面 12A とする。

[0062] 第 1 袋体 12 は、袋部材 123 と、開閉ラベル 124 とを有する。開閉ラベル 124 は、第 1 袋体 12 の正面 12A と上面 12B のそれぞれ一部を覆うように、袋部材 123 の外側面に貼付されている。袋部材 123 としては、少なくとも合成樹脂を含むフィルム状の部材で袋状に形成されたものを例

示できる。本実施形態では、透明の低密度ポリエチレン層（LDPE）と乳白色のポリエチレン層（PE）が接着したフィルム部材によって形成されている。開閉ラベル124は、紙を含有する合成紙で形成されており、袋部材123との対向面は接着剤が塗布された粘着面となっている。

[0063] 袋部材123には、個包装体13を取り出す開口部H1を形成するためのミシン目123Aが形成されている。ミシン目123Aは、開閉ラベル124の外縁よりも内側に位置しているため、ミシン目123Aの全体が開閉ラベル124によって覆われている。第1パッケージ10の初回開封時において、ユーザーが開閉ラベル124の端部を掴んで上側に引っ張り、開閉ラベル124を袋部材123から徐々に引き剥がす。そうすると、ミシン目123Aよりも内側の袋部材123の部分は開閉ラベル124に接着し、袋部材123はミシン目123Aに沿って破断する。その結果、図2に示すように、袋部材123に開口部H1が形成されて、袋部材123から個包装体13を取り出し可能となる。

[0064] また、ミシン目123Aの一端と他端は連続していない。そのため、ミシン目123Aよりも内側の袋部材123Aの部分と開閉ラベル124は、袋部材123の本体部分から完全に分離しない。また、開閉ラベル124は開口部H1よりも一回り大きく、開閉ラベル124の外周縁部は、袋部材123に再接着可能となっている。よって、開閉ラベル124は、第1袋体12の開封後も開口部H1を覆い、袋部材123を再封止することができる封止部として機能する。

[0065] ===第2パッケージ20の基本構成===

図6は、第2パッケージ20の正面図である。図7は、第2パッケージ20の断面図である。図8は、開封状態の第2パッケージ20の概略斜視図である。図9Aは、ショーツ型ナプキン21の概略正面図であり、図9Bは、ショーツ型ナプキン21の個包装体23の平面図である。図10Aは、展開且つ伸長状態であるショーツ型ナプキン21の概略平面図である。図10Bは、ショーツ型ナプキン21の概略断面図である。なお、展開状態とは、シ

ショーツ型ナプキン 21 の幅方向の両側部の接合が解かれ、ショーツ型ナプキン 21 が上下方向に展開された状態である。

[0066] ショーツ型ナプキン 21 (図 9 A) は、互いに直交する上下方向、及び、幅方向を有し、展開状態のショーツ型ナプキン 21 (図 10 A) は、上下方向に沿う長手方向、及び、厚さ方向を有する。また、ショーツ型ナプキン 21 は、外装部材 211 と吸収性本体 212 を有し、胴回り開口部 B H と一対の脚回り開口部 L H が形成されており、着用者が下着のように、はいて使用するタイプの生理用ナプキンである。

[0067] 図 10 B に示すように、外装部材 211 は、非伸縮性シート 213 と、長手方向に折り返された非伸縮性シート 213 の間に配置された伸縮性シート 214 を備える。図示しないが、吸収性本体 212 は、少なくとも液透過性の肌側シートと液不透過性の非肌側シートと吸収体を備えるものとする。ただし、ショーツ型ナプキン 21 の構成は図示するものに限定されない。例えば、外装部材 211 が、着用者の腹側を覆う胴回り部材と、着用者の背側を覆う胴回り部材とに分割された部材であってもよい。

[0068] ショーツ型ナプキン 21 にも、パッド型ナプキン 11 と共通する温感剤 30 が配置されている。具体的には、腹側の外装部材 211 のうち、厚さ方向の肌側に折り返された非伸縮性シート 213 の非肌側面に、温感剤 30 が幅方向に沿って配置されている。また、吸収性本体 212 の長手方向の中央よりも腹側の部位に、温感剤 30 が配置されている。詳しくは、吸収性本体 212 が有する肌側シート (不図示) の非肌側面のうち、幅方向の中央部の両側の長手方向に沿った一対の帯状の領域に、温感剤 30 が配置されている。そのため、ショーツ型ナプキン 21 もパッド型ナプキン 11 と同様に、着用者の下腹部 (子宮に近い部分) を温めることができる。

[0069] なお、本実施形態では、パッド型ナプキン 11 及びショーツ型ナプキン 21 が共に、着用者の下腹部を温められるように、ナプキン 11, 21 の腹側の領域に温感剤 30 が配置されているが、温感剤 30 の配置位置や配置パターンは特に限定されない。例えば、着用者の腰部を温められるように、ナプ

キン 1 1, 2 1 の背側の領域に温感剤 3 0 を配置してもよい。

[0070] ショーツ型ナプキン 2 1 は個別に包装された個包装体 2 3 の状態で第 2 袋体 2 2 に收容される。個包装体 2 3 は、ショーツ型ナプキン 2 1 と、ショーツ型ナプキン 2 1 を包装する包装材 2 3 1 を備える。ショーツ型ナプキン 2 1 は、図 9 A に示すように、上下方向に沿う折り部 F 1, F 1 によって、外装部材 2 1 1 の幅方向の両側部が幅方向の内側に折り返された後、幅方向に沿う折り部 F 2 によって、外装部材 2 1 1 及び吸収性本体 2 1 2 が上下方向に折り畳まれる。そうして折り畳まれたショーツ型ナプキン 2 1 が包装材 2 3 1 によって包装されて、個包装体 2 3 (図 9 B) が形成される。

[0071] 図 6 に示すように、第 2 袋体 2 2 は、熊の輪郭を成した袋形状であり、互いに直交する上下方向、左右方向、及び、前後方向を有する。また、第 2 袋体 2 2 は、図 7 に示すように、前後方向の前側に位置する正面 2 2 A と、後側に位置する背面 2 2 B と、上下方向の下側に位置する底面 2 2 C を有する。第 2 袋体 2 2 のうち、ブランド名 2 2 1 やサブブランド名 2 2 2 が最も大きく配置されている面を正面 2 2 A とする。

[0072] 第 2 袋体 2 2 の正面 2 2 A 及び背面 2 2 B は、下端部を除く互いの外周縁部が熱融着されている。また、図示しないが、前後方向の前側半分の底面 2 2 C の幅方向の両側部は、正面 2 2 A と対向した状態で、三角形状に熱融着されている。同様に、前後方向の後側半分の底面 2 2 C の幅方向の両側部は、背面 2 2 B と対向した状態で、三角形状に熱融着されている。

[0073] また、第 2 袋体 2 2 は、チャック部 2 2 3 と、一对の切込み部 2 2 4 を有する。切込み部 2 2 4 は、チャック部 2 2 3 よりも上側において、第 2 袋体 2 2 の幅方向の側縁から幅方向の内側に凸状に切り込まれた部位である。チャック部 2 2 3 は、図 7 に示すように、凸部材 2 2 3 A と、凸部材 2 2 3 A に噛み合う凹部材 2 2 3 B とを有する。凸部材 2 2 3 A は第 2 袋体 2 2 の正面 2 2 A の内側に設けられ、凹部材 2 2 3 B は第 2 袋体 2 2 の背面 2 2 B の内側に設けられている。凸部材 2 2 3 A 及び凹部材 2 2 3 B は、第 2 袋体 2 2 の幅方向両側部の熱融着部間を、幅方向に沿って設けられている。

[0074] 第2パッケージ20の初回開封時において、ユーザーは、切込み部224を起点に、第2袋体22を幅方向に沿って破断する。そうすると、図8に示すように、チャック部223よりも上側の第2袋体22の部分が取り外されて開口部H2が形成され、第2袋体22から個包装体23を取り出し可能となる。

[0075] 開口部H2の形成後は、チャック部223の凸部材223Aと凹部材223Bを噛み合わせることで、開口部H2が閉じて、第2袋体22が密封される。また、噛み合った状態の凸部材223Aと凹部材223Bが引き剥がされることで、再び開口部H2が形成される。つまり、チャック部223は、第2袋体22を再封止することができる封止部として機能する。

[0076] ===パッケージ群===

図11A及び図11Bは、温感剤30の強度が異なるパッド型ナプキン11を収容する第1パッケージ10を示す図である。図12A及び図12Bは、温感剤30の強度が異なるショーツ型ナプキン21を収容する第2パッケージ20を示す図である。

[0077] 前述したように、パッド型ナプキン11（第1吸収性物品）及びショーツ型ナプキン21（第2吸収性物品）は、共通する機能剤である「温感剤30」を有する。また、パッド型ナプキン11は、図3に示すように肌面側から視認可能な「熊の図柄118」と、図4に示すように非肌面側から視認可能な「熊の図柄119」を有する。また、ショーツ型ナプキン21も、図9Aに示すように非肌面側から視認可能な「熊の図柄215」を有する。つまり、パッド型ナプキン11及びショーツ型ナプキン21は、共通する機能剤、及び、共通する図柄を有する。

[0078] パッド型ナプキン11及びショーツ型ナプキン21は、共に生理用ナプキンであるが、製品形態が異なる。「製品形態が異なる」とは、ユーザーの用途や使用タイミングに応じて形態（形状）が異なる物とし、単なるサイズ違いの物（例えばSサイズのショーツ型ナプキン21とMサイズのショーツ型ナプキン21）は製品形態が異なるものに含まれないとする。生理用ナプキ

ンの場合、製品形態が異なる物として、パッド型ナプキン 1 1 及びショーツ型ナプキン 2 1 の他に、昼用ナプキン、夜用ナプキン、多い日用ナプキン、軽い日用ナプキン、羽（ウィング部 1 w）有りナプキン、羽なしナプキン等を例示できる。

[0079] 一般に、同じ生理用ナプキンに分類される商品には、同一のブランド名が付与され、ナプキンの機能やデザインに応じて異なるサブブランド名が付与される。つまり、同じ機能やデザインを有する生理用ナプキンは、製品形態が異なる場合にも、同一のサブブランド名が付与される。本実施形態においても、パッド型ナプキン 1 1 及びショーツ型ナプキン 2 1 は、製品形態が異なるが、共通の特徴（温感剤 3 0 や熊の図柄 1 1 8, 1 1 9, 2 1 5）を有するため、同一のブランド名（例：ソフィ）及び同一のサブブランド名（例：HOT 暖℃）が付与されている。「HOT 暖℃」の「HOT」や「暖」は、いずれも温感剤 3 0 による温め機能を想起させるサブブランド名となっている。

[0080] そして、図 1 に示すパッド型ナプキン 1 1 を収容する第 1 袋体 1 2（第 1 パッケージ 1 0）、及び、図 6 に示すショーツ型ナプキン 2 1 を収容する第 2 袋体 2 2（第 2 パッケージ 2 0）は、同一のブランド名 1 2 1, 2 2 1、及び、同一のサブブランド名 1 2 2, 2 2 2 を有する。そうすることで、ユーザーは小売店等において所望するサブブランドのパッケージ群、つまり、好んで使用している機能や図柄を備えるナプキン 1 1, 2 1 を収容したパッケージ群を容易に選択できる。

[0081] しかし、同じサブブランドであるパッケージ群として、仮に、パッド型ナプキン 1 1 のパッケージと、ショーツ型ナプキン 2 1 のパッケージを、同じ外観となる直方体形状にしたとする。そうすると、ユーザーは、パッケージの表示を確認する必要があり、所望する製品形態のナプキン 1 1, 2 1 を直ぐに選択することは難しい。

[0082] そこで、本実施形態では、パッド型ナプキン 1 1 を収容する第 1 袋体 1 2（第 1 パッケージ 1 0）の外観と、ショーツ型ナプキン 2 1 を収容する第 2

袋体 2 2（第 2 パッケージ 2 0）の外観とが、異なるようにする。具体的には、第 1 袋体 1 2（図 1）は直方体形状の外観とし、第 2 袋体 2 2（図 6）は熊の輪郭を成す袋形状の外観とする。

[0083] つまり、「袋体の外観が異なる」とは、袋体の形状の種類が異なることである。例えば、吸収性物品の袋体として多く採用されている直方体形状の袋体と、直方体以外の形状である袋体とでは、外観が大きく異なり、ユーザーが袋体の違いを識別しやすい。なお、辺の長さの比率が異なる直方体形状の袋体（例えば、細長の直方体形状である袋体と、立方体に近い直方体形状である袋体）は、同じ外観とする。また、直方体以上の形状の袋体としては、図 6 の第 2 袋体 2 2 の他に、例えば、円筒形状の袋体や、台形柱の袋体等を例示できる。また、熊以外の動物やキャラクター、植物、乗り物、月、太陽等の輪郭を成す袋体であってもよい。

[0084] 上記のように、製品形態に応じて、袋体 1 2，2 2 の外観を異ならせることで、ユーザーは、同じサブブランドのパッケージ群の中から、所望する製品形態のナプキンのパッケージ 1 0，2 0 を容易に選択できる。例えば、袋体 1 2，2 2 が有する「パッド型」や「ショーツ型」等の文字や、ナプキン 1 1，2 1 を示す製品図柄（図 1 の 1 2 7 や図 6 の 2 2 7）を確認することなく、所望のパッケージ 1 0，2 0 を選択できる。また、間違ったパッケージ 1 0，2 0 が選択され難くなる。

[0085] なお、本実施形態のパッド型ナプキン 1 1 及びショーツ型ナプキン 2 1 は、共通する温感剤 3 0 と共通する熊の図柄 1 1 8，1 1 9，2 1 5 の両方を有するが、これに限らない。パッケージ群が有する第 1 吸収性物品及び第 2 吸収性物品は、共通する機能剤、及び、共通する図柄のうちの少なくとも一方を有していればよい。

[0086] また、共通する機能剤は、温感剤 3 0 に限定されない。例えば、冷感剤、香料剤、消臭剤、抗菌剤、漢方薬剤、皮膚収斂剤、抗炎症剤、pH 調整剤、保湿剤等、周知のものを採用できる。また、第 1 吸収性物品及び第 2 吸収性物品はそれぞれ複数種類の機能剤を有していてもよく、その場合、少なくとも

も 1 種類の機能剤が共通であればよい。

[0087] また、パッケージ群が有する第 1 吸収性物品及び第 2 吸収性物品は、パッド型ナプキン 1 1 及びショーツ型ナプキン 2 1 に限定されず、製品形態が異なる他の生理用ナプキン（例えば昼用ナプキンと夜用ナプキン）であってもよい。また、パッケージ群が有する、製品形態の異なる吸収性物品は、2 種類に限定されず、3 種類以上であってもよい。例えば、第 1 吸収性物品及び第 2 吸収性物品と製品形態の異なる吸収性物品をパッケージ群が有する場合、その吸収性物品を収容する袋体の外観（袋体の形状の種類）は、第 1 袋体の外観及び第 2 袋体の袋体の外観と異なるようにする。

[0088] また、パッケージ群が有する第 1 吸収性物品及び第 2 吸収性物品は、生理用ナプキンに限定されず、例えば、使い捨ておむつや、軽失禁用の吸収性物品や、パンティライナー、タンポン等であってもよい。例えば、パッケージ群が製品形態の異なるテープ型の使い捨ておむつとパンツ型の使い捨ておむつを有する場合、テープ型の使い捨ておむつを収容する袋体の外観と、パンツ型の使い捨ておむつを収容する袋体の外観とが異なるようにする。

[0089] また、第 1 袋体 1 2（図 1）及び第 2 袋体 2 2（図 6）は共に、正面 1 2 A，2 2 A の同一部分にブランド名 1 2 1，2 2 1 及びサブブランド名 1 2 2，2 2 2 を有することが好ましい。本実施形態では、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 の各正面 1 2 A，2 2 A の中央部に、ブランド名 1 2 1，2 2 1 及びサブブランド名 1 2 2，2 2 2 が設けられている。また、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 は共に、熊の図柄 1 2 6，2 2 6 を有し、熊の図柄 1 2 6，2 2 6 がブランド名 1 2 1，2 2 1 及びサブブランド名 1 2 2，2 2 2 を抱きしめているデザインとなっている。そうすることで、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 に統一感を持たせることができる。

[0090] 具体的には、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 が有するサブブランド名 1 2 2，2 2 2 では、「HOT 暖℃」より外側の領域を黒色等の濃い色とし、「HOT 暖℃」の文字の縁を赤色で着色し、「HOT 暖℃」の文字の内側に、箔押し加工で銀色の粒子状の金属が圧着されている。なお、箔押し加工によ

る圧着させる金属は、粒子状でもシート状、ブロック状等、任意の状態の金属を用いることができる。これによって、「HOT暖℃」の文字の内側の金属で、「HOT暖℃」の文字の縁の赤色が乱反射して、「HOT暖℃」の文字が立体感のある文字となり、ユーザーがサブブランド名122, 222に着目しやすくなる。また、「HOT暖℃」より外側の領域を黒色等の濃い色とすることで、より「HOT暖℃」の文字を目立たせることができる。このように、袋体12, 22のサブブランド名122, 222のデザインを同じにすることで、第1袋体12及び第2袋体22に統一感を持たせることができる。

[0091] また、第1袋体12及び第2袋体22は、同色の領域を有することが好ましい。より好ましくは、第1袋体12及び第2袋体22の各正面12A, 22Aの半分以上の面積の領域が同色の領域であることが好ましい。例えば、図11Aに示す第1袋体12が有する熊の図柄126の頬の領域S1や熊の図柄126の背景領域S2がピンク色に着色されているとする。その場合、図12Aに示す第2袋体22が有する熊の図柄226の頬の領域S5や熊の図柄226の背景領域S6も同じピンク色に着色されているとよい。そうすることで、第1袋体12及び第2袋体22に統一感を持たせることができる。

[0092] なお、同色の領域とは、ユーザーが袋体12, 22を視認した際に同色と判断できればよい。具体的には、コニカミノルタ社製の色彩色差計CR-300又はそれと同等のものを使用して測定した場合の色差が13未満である領域や、オストワルト色相環によって分類された24色の色票でのずれが1以下である領域とする。

[0093] 上記のように、第1袋体12及び第2袋体22に統一感（同じ世界観）を持たせることで、ユーザーは小売店等において所望するサブブランドのパッケージ群、つまり、好んで使用している機能や図柄を備えるナプキン11, 21を収容したパッケージ群を、間違うことなく容易に選択できる。

[0094] また、本実施形態の場合、第1袋体12及び第2袋体22の色味や表示（サブブランド名や熊の図柄）に統一感があっても、異なる製品形態のナプキ

ン 1 1, 2 1 を收容した袋体 1 2, 2 2 の外観（袋体の形状の種類）が異なる。そのため、所望する製品形態であるナプキン 1 1, 2 1 のパッケージ 1 0, 2 0 を、間違うことなく容易に選択できる。

[0095] また、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 は共通する第 1 図柄を有することが好ましい。第 1 図柄は、動物図柄、キャラクター図柄、及び、ナプキンが有する温感剤 3 0（共通する機能剤）の機能を想起させる想起図柄のうちの少なくとも 1 つを有することが好ましい。本実施形態の第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 は、温感剤 3 0 の温かさを表す想起図柄であり、動物図柄でもある熊の図柄 1 2 6, 2 2 6 を有する。

[0096] 動物図柄、キャラクター図柄、及び、想起図柄は、ユーザーに着目されやすく、ユーザーの印象に残りやすい。また、共通する第 1 図柄（熊の図柄 1 2 6, 2 2 6）によって、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 に統一感を持たせることができる。そのため、ユーザーは、小売店等において、第 1 図柄を有するパッケージ群を、間違うことなく容易に選択できる。また、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 が共通する第 1 図柄を有していても、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 の外観が異なる。そのため、ユーザーは所望する製品形態であるナプキン 1 1, 2 1 のパッケージ 1 0, 2 0 を、間違うことなく容易に選択できる。

[0097] なお、第 1 図柄（熊の図柄 1 2 6, 2 2 6）は、印刷や袋体 1 2, 2 2 の圧搾等によって、袋体 1 2, 2 2 の外側から視認可能に形成されるものとする。また、袋体 1 2, 2 2 は、複数種類の共通する第 1 図柄を有していてもよい。

[0098] また、第 1 図柄が温感剤 3 0 の機能を想起させる想起図柄である場合、袋体 1 2, 2 2 を見たユーザーは、收容されるナプキン 1 1, 2 1 に対して温かい印象を持ちやすい。そのため、ナプキン 1 1, 2 1 の温感剤 3 0 の機能を実感しやすくなる。

[0099] なお、温感剤 3 0 の想起図柄は、熊の図柄 1 2 6, 2 2 6 に限定されない。別の想起図柄として、例えば、熊がハートを抱きしめている図柄や、キャ

ラクターが手袋やマフラーを着用している図柄等を例示できる。また、機能剤が例えば冷感剤である場合、想起図柄として、涼しさを表す雪の結晶の図柄等を例示でき、また、機能剤が例えば香料剤である場合、想起図柄として、その香料が表す物（例えば花等）の図柄を例示できる。

[0100] また、パッド型ナプキン 1 1 及びショーツ型ナプキン 2 1 の少なくとも一方は、第 1 袋体 1 1 及び第 2 袋体 2 1 が有する第 1 図柄（熊の図柄 1 2 6，2 2 6）と共通する図柄であって、ナプキン 1 1，2 1 の非肌面側から視認可能な第 2 図柄を有することが好ましい。本実施形態では、パッド型ナプキン 1 1（図 4）及びショーツ型ナプキン 2 1（図 9 A）が、非肌面側から視認可能な第 2 図柄となる熊の図柄 1 1 9，2 1 5 を有する。

[0101] 同様に、パッド型ナプキン 1 1 及びショーツ型ナプキン 2 1 の少なくとも一方は、第 1 袋体 1 1 及び第 2 袋体 2 1 が有する第 1 図柄（熊の図柄 1 2 6，2 2 6）と共通する図柄であって、ナプキン 1 1，2 1 の肌面側から視認可能な第 3 図柄を有することが好ましい。本実施形態では、パッド型ナプキン 1 1（図 3）が肌面側から視認可能な第 3 図柄となる熊の図柄 1 1 8 を有する。

[0102] そうすることで、ユーザーはナプキン 1 1，2 1 の装着時や使用中に第 2 図柄や第 3 図柄を見るため、ナプキン 1 1，2 1 に対して第 2 図柄や第 3 図柄（熊の図柄 1 1 8，1 1 9，2 2 6）の印象が刷り込まれる。そのため、ユーザーは、次回の購入時に、小売店等において第 1 図柄を有するパッケージ群を間違えることなく容易に選択できる。さらに、第 2 図柄（熊の図柄 1 1 9，2 1 5）及び第 3 図柄（熊の図柄 1 1 8）が、温感剤 3 0 の機能を想起させる想起図柄である場合、ナプキン 1 1，2 1 の使用中に温感剤 3 0 の機能を実感しやすくなる。

[0103] なお、パッド型ナプキン 1 1 の場合、吸収体 1 1 1 の非肌側面や吸収体 1 1 1 よりも非肌側の資材に印刷や圧搾等を施すことで、第 2 図柄（熊の図柄 1 1 9）を形成するとよい。ショーツ型ナプキン 2 1 の場合、吸収性本体 2 1 2 の非肌側面や吸収性本体 2 1 2 よりも非肌側の外装部材 2 1 1 に印刷や

圧搾等を施すことで、第2図柄（熊の図柄215）を形成するとよい。また、第3図柄（熊の図柄118）は、パッド型ナプキン11や、ショーツ型ナプキン21の吸収性本体212を、肌面側から圧搾した圧搾部のパターンによって形成するとよい。その他、サイドシート115を肌側シート112の幅方向の両側部に固定するための溶着パターンや、印刷によって第3図柄を形成してもよい。

[0104] また、第1袋体12の第1図柄と第2袋体22の第1図柄は、完全に一致する図柄に限定されない。同様に、袋体12、22側の第1図柄と、ナプキン11、21側の第2図柄及び第3図柄も、完全に一致する図柄に限定されない。第1図柄～第3図柄は、ユーザーが共通する図柄であると認識できればよく、一部分が異なってもよい。例えば、動物やキャラクターの表情や動きが異なっていたり、一方は体全体の図柄であるが他方は顔のみの図柄であったりしてもよい。

[0105] また、第1袋体12（図1）はパッド型ナプキン11を示す第1製品図柄127を有し、第2袋体22（図6）はショーツ型ナプキン21を示す第2製品図柄227を有するとよい。なお、第1製品図柄127及び第2製品図柄227は、印刷や袋体12、22の圧搾等によって、袋体12、22の外側から視認可能に形成されたものとする。そして、第1袋体12が有する第1図柄（熊の図柄126）の面積は、第1製品図柄127の面積よりも大きく、また、第2袋体22が有する第1図柄（熊の図柄226）の面積は、第2製品図柄227の面積よりも大きいことが好ましい。

[0106] そうすることで、袋体12、22において第1図柄（熊の図柄126、226）が目立つ。そのため、ユーザーは小売店等において所望するサブブランド（すなわち所望する機能剤や図柄を備えるナプキン11、21）のパッケージ群を、間違うことなく容易に選択できる。一方、第1製品図柄127及び第2製品図柄227が小さくとも、本実施形態の袋体12、22は製品形態に応じて外観が異なるため、ユーザーは所望する製品形態のパッケージ10、20を間違うことなく容易に選択できる。ただし、袋体12、22が

第1製品図柄127及び第2製品図柄227を有することで、ユーザーはパッケージ10, 20に收容されているナプキン11, 21の製品形態を確認でき、間違ったパッケージ10, 20の購入をより確実に防止できる。また、初めて購入するユーザーであっても、第1製品図柄127及び第2製品図柄227によって、所望する製品形態であるナプキン11, 21のパッケージ10, 20を選択できる。

[0107] また、第1袋体12及び第2袋体22に共通する第1図柄が、動物図柄か、又はキャラクター図柄である場合、第1製品図柄127及び第2製品図柄227は、第1図柄（熊の図柄126, 226）の重心位置よりも下方に配置されていることが好ましい。そうすることで、袋体12, 22に收容されている製品が股下部に着用する吸収性物品であることを、ユーザーが直感的に認識しやすくなる。例えば、温感剤30が配置されたナプキン11, 21を收容するパッケージ群は、小売店等において、生理用品の陳列場所以外、例えばカイロ等の防寒商品と共に陳列されてもよい。その場合、パッケージ10, 20がナプキン11, 21を收容していることを認識されやすくなることで、本実施形態のパッケージ10, 20がナプキンのユーザーに適切に選択される。

[0108] また、パッド型ナプキン11の平面形状（図3）よりもショーツ型ナプキン21の平面形状（図9A）の方が大きい。そこで、第1袋体12（図1）に比べて、第2袋体22（図6）の方が、袋体12, 22の正面12A, 22Aにおける第1図柄（熊の図柄126, 226）の割合を大きくするとよい。つまり、第1図柄（熊の図柄126, 226）の面積 A_1 を、袋体12, 22の正面12A, 22Aの面積 A_2 で除した値（ A_1/A_2 ）が、第2袋体22の方が大きいことが好ましい。

[0109] そうすることで、第1袋体12にパッド型ナプキン11が收容されており、第2袋体22にショーツ型ナプキン21が收容されていることを、ユーザーが直感的に認識しやすくなる。そのため、ユーザーは、所望する製品形態であるナプキン11, 21のパッケージ10, 20を間違えることなく選択し

やすくなる。

[0110] また、パッド型ナプキン 11 の平面形状（図 3）の方が、ショーツ型ナプキン 21 の平面形状（図 9 A）に比べて、縦長の形状である。すなわち、幅方向に対する長手方向（又は上下方向）の長さが長い。そこで、第 1 袋体 12（図 1）の方が、第 2 袋体 22（図 6）に比べて、縦長の形状にするとよい。つまり、袋体 12, 22 の上下方向の長さ h を左右方向の長さ w で除した値（ h/w ）が、第 1 袋体 12 の方が大きいことが好ましい。

[0111] そうすることで、第 1 袋体 12 にパッド型ナプキン 11 が収容されており、第 2 袋体 22 にショーツ型ナプキン 21 が収容されていることを、ユーザーが直感的に認識しやすくなる。そのため、ユーザーは、所望する製品形態であるナプキン 11, 21 のパッケージ 10, 20 を間違えることなく選択しやすくなる。

[0112] また、パッド型ナプキン 11 は、温感剤 30 の配置量が少ない「軽温感用のパッド型ナプキン 11」（第 1 低機能吸収性物品）と、軽温感用のパッド型ナプキン 11 に比べて温感剤 30 の配置量が多い「強温感用のパッド型ナプキン 11」（第 1 高機能吸収性物品）とを有していてもよい。

[0113] 同様に、ショーツ型ナプキン 21 は、温感剤 30 の配置量が少ない「軽温感用のショーツ型ナプキン 21」（第 2 低機能吸収性物品）と、軽温感用のショーツ型ナプキン 21 に比べて温感剤 30 の配置量が多い「強温感用のショーツ型ナプキン 21」（第 2 高機能吸収性物品）とを有していてもよい。

[0114] 具体的には、強温感用のナプキン 11, 21 は、軽温感用のナプキン 11, 21 に比べて、温感剤 30 の坪量（ g/m^2 ）を高めたり、温感剤 30 の配置面積を大きくしたりするとよい。そうすることで、例えば強い冷えを感じるユーザーは、強い温かさを感じられる強温感用のナプキン 11, 21 を選択できる。また、例えば肌の弱いユーザーは、程好い温かさを感じられる軽温感用のナプキン 11, 21 を選択できる。

[0115] この場合、パッド型ナプキン 11 を収容する第 1 袋体 12（第 1 パッケージ 10）は、図 11 A に示すように、軽温感用のパッド型ナプキン 11 を収

容する第3袋体12L（パッケージ）と、図11Bに示すように、強温感用のパッド型ナプキン11を収容する第4袋体12H（パッケージ）に分類される。

[0116] 同様に、ショーツ型ナプキン21を収容する第2袋体22（第2パッケージ20）は、図12Aに示すように、軽温感用のショーツ型ナプキン21を収容する第5袋体22L（パッケージ）と、図12Bに示すように、強温感用のショーツ型ナプキン21を収容する第6袋体22H（パッケージ）に分類される。

[0117] そして、第3袋体12L（図11A）及び第5袋体22L（図12A）には、軽い温感作用が働くことを示す表示12L1, 22L1（例：軽温感）が設けられ、第4袋体12H（図11B）及び第6袋体22H（図12B）には、強い温感作用が働くことを示す表示12H1, 22H1（例：強温感）が設けられているとよい。そうすることで、ユーザーは、所望する強さの温感作用を有するナプキン11, 21のパッケージ10, 20を間違えることなく選択できる。

[0118] また、例えば、第3袋体12L（図11A）が有する熊の図柄126の頬の領域S1や背景領域S2がピンク色に着色されているとする。その場合、第4袋体12H（図11B）が有する熊の図柄126の頬の領域S3や背景領域S4が、ピンク色と異色であるオレンジ色に着色されているとよい。同様に、第5袋体22L（図12A）が有する熊の図柄226の頬の領域S5や背景領域S6がピンク色に着色されている場合、第6袋体22H（図12B）が有する熊の図柄226の頬の領域S7や背景領域S8が、ピンク色と異色であるオレンジ色に着色されているとよい。

[0119] このように、第3袋体12L及び第4袋体12Hは、外観は同じ直方体形状であるが、異色の領域を有することが好ましい。同様に、第5袋体22L及び第6袋体22Hは、外観は同じ、熊の輪郭を成す袋形状であるが、異色の領域を有することが好ましい。より好ましくは、第3袋体12L及び第4袋体12Hの各正面の半分以上の面積の領域が異色の領域であるとよく、ま

た、第5袋体22L及び第6袋体22Hの各正面の半分以上の面積の領域が異色の領域であるとよい。

[0120] つまり、ナプキン11, 21の製品形態が同じであっても、温感剤30の配置量に応じて袋体12, 22の色味を変えると良い。そうすることで、ユーザーは、所望する強さの温感作用を有するナプキン11, 21のパッケージ10, 20を間違えることなく容易に選択できる。また、温感作用の強さが異なる場合にも、製品形態が同じであるナプキン11, 21は、外観が同じである袋体12, 22に収容するとよい。そうすることで、ユーザーは、所望する製品形態であるナプキン11, 21のパッケージ10, 20を間違えることなく選択できる。

[0121] また、軽温感用である第3袋体12L及び第5袋体22Lは、外観は異なるが（直方体形状と袋形状であるが）、同色であるピンク色の領域を有することが好ましい。同様に、強温感用である第4袋体12H及び第6袋体22Hは、外観は異なるが、同色であるオレンジ色の領域を有することが好ましい。

[0122] つまり、温感剤30の配置量の違いによる袋体12, 22の色の違いの関係（軽温感用はピンク色、強温感用はオレンジ色）を、パッド型ナプキン11とショーツ型ナプキン21とで同じにする。そうすることで、ユーザーは、異なる製品形態のナプキン11, 21を選択する場合にも、所望する強さの温感作用を有するナプキン11, 21のパッケージ10, 20を間違えることなく選択できる。

[0123] なお、異色の領域とは、ユーザーが袋体を視認した際に異色と判断できればよい。具体的には、コニカミノルタ社製の色彩色差計CR-300又はそれと同等のものを使用して測定した場合の色差が13以上である領域や、オストワルト色相環によって分類された24色の色票で2以上ずれている領域とする。

[0124] また、上記のように、温感剤30を有するナプキン11, 21の袋体12, 22には、暖色系の色（ピンク色、赤色、オレンジ色、黄色等）に着色さ

れた領域を設けることが好ましい。そうすることで、着用者はナプキン 1 1, 2 1 の温感機能を認識しやすくなる。また、強温感用の袋体 1 2 H, 2 2 H は、弱温感用の袋体 1 2 L, 2 2 L に比べて、赤色に近い色（本実施形態ではオレンジ色）に着色された領域を設けるとよい。そうすることで、着用者が直感的に温感作用の強さを認識しやすくなる。ただし、袋体 1 2, 2 2 の色は暖色系の色に限定されない。

[0125] また、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体 2 2 は QR コード（登録商標）を有していることが好ましい。具体的には、第 1 袋体 1 2（図 1）は、その上面 1 2 B に QR コード 1 2 5 が設けられている。第 2 袋体 2 2（図 8）は、その背面 2 2 B に QR コード 2 2 5 が設けられている。ただし、上記に限定されず、QR コード 1 2 5, 2 2 5 は、第 1 袋体 1 2 及び第 2 袋体の外側から視認可能であれば、何れの位置に配置されていてもよい。そして、QR コード 1 2 5, 2 2 5 は、以下の 3 つのうちの少なくとも 1 つが可能であることが好ましい。

[0126] 1 つ目は、ユーザーが所有する端末（スマートフォンやタブレット等）のカメラによって QR コード 1 2 5, 2 2 5 が読み取られると、その端末において、パッド型ナプキン 1 1 及びショーツ型ナプキン 2 1 に関する情報を有する Web ページにアクセスすることである。そうすることで、ユーザーはナプキン 1 1, 2 1 に関する情報（例えば温感作用があること、熊の図柄によるデザイン性が高いこと等の情報）を取得できる。よって、ナプキン 1 1, 2 1 が有する温感剤 3 0 等の機能剤や図柄がユーザーに認識されやすくなる。特に、パッケージ群が、温感剤 3 0 の配置量が異なるナプキン 1 1, 2 1 の袋体 1 2, 2 2（例えば図 1 1 A 及び図 1 1 B）を備える場合、Web ページにおいて、その情報を表示することで、誤認使用を防止できる。

[0127] 2 つ目は、ユーザーの端末によって QR コード 1 2 5, 2 2 5 が読み取られると、その端末において、パッケージ群を販売する Web ページにアクセスすることである。そうすることで、ユーザーは Web 上でもパッケージ 1 0, 2 0 を購入することができ、ユーザーの購入手段を増やすことができる。

。

[0128] 3つ目は、QRコード125, 225が、複数の第1パッケージ10及び複数の第2パッケージ20を個別に識別することである。そのために、同じ第1パッケージ10であっても個体毎に異なるQRコード125を付し、同じ第2パッケージ20であっても個体毎に異なるQRコード225を付すとよい。そうすることで、パッケージ10, 20毎の管理（追跡調査等）を行うことができる。また、同じQRコード125, 225を備えた所謂コピー商品等の類似品を発見した場合に真贋判定を行うことができる。

[0129] また、第1パッケージ10では、パッド型ナプキン11を個別に包装する包装材131が、第1袋体12に比べて温感剤30の揮発を抑制できるものとする。具体的に、第1袋体12（袋部材123）として、例えば透明の低密度ポリエチレン層（LDPE）と乳白色のポリエチレン層（PE）が接着した状態のシートを例示できる。包装材131として、例えばポリエチレン（PE）やポリプロピレン（PP）等の溶着が可能な樹脂を含有するシート層の間に、エチレン-ビニルアルコール共重合体シート（EVOH）等の揮発性物質の揮発を抑制可能な物質を含有する層を備えるシートを例示できる。このような包装材131を使用することで、個包装体13の開封前にパッド型ナプキン11の温感剤30が揮発してしまうことを抑制でき、着用者がナプキン1を使用する際に温感剤30の機能が発揮される。

[0130] 一方、第2パッケージ20では、第2袋体22の方が、ショーツ型ナプキン21を個別に包装する包装材231に比べて温感剤30の揮発を抑制できるものとする。そして、第2袋体22は、第2袋体22の開封後に再封止可能な封止部（本実施形態ではチャック部223）を有するものとする。

[0131] 具体的に、個包装体23の包装材231として、例えば、不織布、樹脂フィルム、それらのラミネートシート等を例示できる。第2袋体22として、例えば気体や液体が透過し難い性質を有する気密層と、融着層とを含む複数層のシートを例示できる。気密層の材料としては、エチレンビニルアルコール樹脂、アルミニウム被着フィルム及びアルミ箔、延伸ポリエチレンテレフ

タレート、グリコール変性ポリエチレンテレフタレート、延伸ポリアミド、揮発性不透過性ラッカーでコーティングされたポリマーフィルム、及び、これらの組み合わせからなる群から選択される材料が挙げられる。融着層の材料としては、ポリエチレン（PE）、ポリプロピレン（PP）、ポリ塩化ビニル（PVC）、及びこれらの組み合わせからなる群から選択される材料が挙げられる。

[0132] そうすることで、第2袋体22の初回開封前にショーツ型ナプキン21の温感剤30が揮発してしまうことを抑制できる。また、第2袋体22の初回開封後も、チャック部223によって第2袋体22を再密封することができるため、ショーツ型ナプキン21の温感剤30が揮発してしまうことを抑制できる。また、第1袋体12の開閉ラベル124に比べて、第2袋体22のチャック部223の方が、袋体12、22の再封止時における密封度が高い。そのため、個包装体23毎に温感剤30の揮発抑制層を有さない第2袋体22には、チャック部223を採用することが好ましい。

[0133] また、本実施形態では、第1袋体12は再封止可能な封止部として開閉ラベル124を有し、第2袋体22は第1袋体12とは異なる封止部であるチャック部223を有する。このように第1袋体12と第2袋体22が異なる封止部124、223を有することで、第1袋体12と第2袋体22の外観がさらに異なる。よって、ユーザーは、同じサブブランドのパッケージ群の中から、所望する製品形態のナプキン11、21のパッケージ10、20を間違えることなく容易に選択できる。

[0134] ただし、上記に限定されない。例えば、第1袋体12では個包装体13毎に温感剤30の揮発抑制層が設けられているため、第1袋体12は封止部を有していなくてもよい。この場合、封止部の有無によって、第1袋体12と第2袋体22の外観をさらに異ならせることができる。その他、第2袋体22がチャック部の代わりに開閉ラベルを有していてもよいし、第1袋体12と第2袋体22が同じ封止部を有していてもよい。

[0135] また、上記のように、第1袋体12では個包装体13毎に温感剤30の揮

発抑制層が設けられ、第2袋体22では、個包装体23毎に温感剤30の揮発抑制層は設けられず、第2袋体23に温感剤30の揮発抑制層が設けられる場合、以下であることが好ましい。

[0136] まず、第1袋体12が収容するパッド型ナプキン11の数（本実施形態では5個）に比べて、第2袋体22が収容するショーツ型ナプキン21の数（本実施形態では2個）の方が少ないとよい。そうすることで、ナプキンの収容数が少ない第2袋体22では、第2袋体22の開閉回数が少なくなる。そのため、第2袋体22では、個包装体23毎に温感剤30の揮発抑制層が設けられていなくても、ショーツ型ナプキン22からの温感剤30の揮発を抑制できる。

[0137] また、第1袋体12に収容するナプキンが、パッド型ナプキン11であり、第2袋体22に収容するナプキンが、ショーツ型ナプキン21であるとよい。ショーツ型ナプキン22は、パッド型ナプキン12に比べると、外出先での交換が大変である。そのため、ショーツ型ナプキン22は、パッド型ナプキン12に比べて、個包装体の状態で持ち運びされる確率が低い。そのため、ショーツ型ナプキン21の個包装体23が温感剤30の揮発抑制層を有していなくても、第2袋体22が温感剤30の揮発抑制層を有していれば、ショーツ型ナプキン21からの温感剤30の揮発を抑制できる。逆に、パッド型ナプキン11は個包装体13の状態で持ち運びされる確率が高いため、個包装体13が温感剤30の揮発抑制層を有することで、パッド型ナプキン11からの温感剤30の揮発を抑制できる。

[0138] また、第1袋体12に収容するナプキンが、昼用のナプキンであり、第2袋体22に収容するナプキンが、夜用のナプキンであるとよい。夜用のナプキンは、昼用のナプキンに比べて、個包装体の状態で持ち運びされる確率が低い。そのため、夜用のナプキンの個包装体が温感剤30の揮発抑制層を有していなくても、第2袋体22が温感剤30の揮発抑制層を有していれば、夜用のナプキンからの温感剤30の揮発を抑制できる。逆に、昼用のナプキンは個包装体の状態で持ち運びされる確率が高いため、個包装体が温感剤30

0の揮発抑制層を有することで、昼用のナプキンからの温感剤30の揮発を抑制できる。

[0139] なお、本実施形態のパッド型ナプキン11が昼用のナプキンであるに限らず、ショーツ型ナプキン22が夜用のナプキンに限らない。例えば、昼用のナプキンと夜用のナプキンが、共にパッド型ナプキンであってもよい。夜用のパッド型ナプキンとしては、後漏れ防止のために、昼用のナプキンに比べて後方に長く延びたナプキンを例示できる。

[0140] ===広告媒体、及び、パッケージ群1の陳列方法===

図13は、パッケージ群1を陳列する棚40を示す図である。図13に示すパッケージ群1を陳列する什器である棚40は上下方向及び左右方向を有する。そして、パッケージ群1の陳列方法は、図13に示すように、上下方向における第1パッケージ10と第2パッケージ20の間に別の生理用ナプキン（吸収性物品）のパッケージを陳列することなく、上下方向に第1パッケージ10と第2パッケージ20を並べる、又は、左右方向における第1パッケージ10と第2パッケージ20の間に別の生理用ナプキンのパッケージを陳列することなく、左右方向に第1パッケージ10と第2パッケージ20を並べることが好ましい。

[0141] つまり、同じサブブランドである第1パッケージ10及び第2パッケージ20を集めて陳列することが好ましい。そうすることで、小売店等においてユーザーがパッケージ群1の陳列場所を容易に見つけることができる。また、異なる製品形態のナプキン11, 21を収容した第1パッケージ10と第2パッケージ20が近くに陳列されていても、本実施形態ではナプキン11, 21の製品形態に応じてパッケージ10, 20の外観を異ならせている。そのため、ユーザーは所望する製品形態のナプキンのパッケージ10, 20を間違えることなく容易に選択できる。

[0142] パッケージ群1を陳列する什器としては、棚40の他に、棚や天井から吊り下げ可能な吊り下げ具や、台や、箱を例示できる。図示しないが、パッケージ群1を台の上や箱の中に置いて陳列する場合にも、吊り下げ具によりパ

ッケージ群 1 を吊り下げて陳列する場合にも、第 1 パッケージ 10 と第 2 パッケージ 20 を集めて陳列することが好ましい。

[0143] しかし、上記に限定されない。例えば、第 1 パッケージ 10 と、別のサブブランドであるパッド型ナプキンのパッケージを近くに陳列してもよい。また、その陳列場所から離れた場所において、第 2 パッケージ 20 と、別のサブブランドであるショーツ型ナプキンのパッケージを近くに陳列してもよい。

[0144] また、前述したように、第 1 袋体 12 及び第 2 袋体 22 は共通する第 1 図柄（熊の図柄 126, 226）を有する。この場合、パッケージ群 1 を陳列する什器（棚 40 等）に設置可能な広告媒体（POP 広告、スウィングカート、ポスター等）は、第 1 図柄（熊の図柄 126, 226）と共通する図柄を有するとよい。例えば、図 13 に示すように、パッケージ群 1 を陳列する棚 40 の上に、熊の図柄 501 の POP 広告を配置するとよい。そうすることで、小売店等においてユーザーがパッケージ群 1 の陳列場所を容易に見つけることができる。

[0145] その他、Web 上においてパッケージ群 1 を広告する広告媒体である Web ページ（不図示）においても、第 1 図柄と共通する図柄（本実施形態では熊の図柄）が表示されることが好ましい。そうすることで、Web ページにおいて熊の図柄を見たユーザーは、小売店等において第 1 図柄（熊の図柄 126, 226）を有するパッケージ群 1 を容易に選択できる。なお、袋体 12, 22 側の第 1 図柄と、広告媒体の図柄は、ユーザーが共通する図柄であると認識できればよく、完全に一致する図柄に限定されず、一部分が異なってもよい。

[0146] また、パッケージ群 1 は、小売店等が備える什器に陳列されるに限らず、パッケージ群 1 を陳列するための専用の什器に陳列されてもよい。専用の什器とは、例えば、段ボール製やプラスチック製の、棚や箱や台や吊り下げ POP（パッケージを置くためのポケットや吊り下げ棒を備える POP）等を例示できる。

[0147] この什器では、什器の上下方向における第1パッケージ10と第2パッケージ20の間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、上下方向に第1パッケージ10と第2パッケージ20が並べられる、又は、什器の左右方向における第1パッケージ10と第2パッケージの20間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、左右方向に第1パッケージ10と第2パッケージ20が並べられるものとする。このような什器によれば、第1パッケージ10及び第2パッケージ20を集めて陳列することができ、小売店等においてユーザーがパッケージ群1の陳列場所を容易に見つけることができる。

[0148] 上記のようにパッケージ群1が陳列される什器も、袋体12, 22が有する第1図柄（熊の図柄）と共通する図柄を有することが好ましいが、有さなくてもよい。また、什器は、パッケージ群1が陳列された状態で小売店等に提供されてもよいし、パッケージ群1が陳列されていない状態で小売店等に提供されてもよい。

[0149] また、上記の実施形態では、第1袋体12及び第2袋体22の形状の種類が異なること（例えば直方体形状と直方体以外の形状であること）を、袋体12, 22の外観が異なるとしていたが、これに限定されない。例えば、図6に示す第2袋体22は、左右方向の両側部に、厚さ方向に貫通する一対の貫通孔228を有する。この貫通孔228は第2袋体22を吊り下げて陳列する際に利用できる。例えば、小売店等の什器において、第2袋体22の前後方向（正面22Aに直交する方向）に突出する棒状の吊り下げ具に、第2袋体22の貫通孔228を通すことで、第2袋体22を吊り下げて陳列できる。

[0150] このように、吊り下げて陳列することを想定した袋体（例えば図6の第2袋体22）は貫通孔228等を有するため、貫通孔228等を有さず、置いて陳列されることを想定した袋体（例えば図1の第1袋体12）と外観が異なる。つまり、製品形態の異なる吸収性物品を収容した第1袋体及び第2袋体のうちの一方を、置いて陳列されることを想定した袋体とし、他方を、吊

り下げて陳列されることを想定した袋体とすることで、外観を異ならせるようにしてもよい。この場合、ユーザーは、袋体の外観の違いの他に、置いて陳列されているか又は吊り下げて陳列されているかによっても、所望する製品形態である吸収性物品のパッケージを選択できる。

[0151] 以上、本発明の実施形態について説明したが、上記の実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。また、本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更や改良され得るとともに、本発明にはその等価物が含まれるのは言うまでもない。

符号の説明

[0152] 1 パッケージ群、
10 第1パッケージ、
11 パッド型ナプキン（第1吸収性物品、パッド型の吸収性物品）、
118 熊の図柄（第3図柄）、119 熊の図柄（第2図柄）、
12 第1袋体、12L 第3袋体、12H 第4袋体、
121 ブランド名、122 サブブランド名、
123 袋部材、124 開閉ラベル、125 QRコード、
126 熊の図柄（第1図柄）、127 第1製品図柄、
13 個包装体、131 包装材、
20 第2パッケージ、
21 ショーツ型ナプキン（第2吸収性物品、下着型の吸収性物品）、
215 熊の図柄（第2図柄）、
22 第2袋体、22L 第5袋体、22H 第6袋体、
221 ブランド名、222 サブブランド名、
223 チャック部（封止部）、224 切込み部、225 QRコード、
226 熊の図柄（第1図柄）、227 第2製品図柄、
23 個包装体、231 包装材、
30 温感剤（機能剤）、
40 棚（什器）、50 POP広告（広告媒体）、501 熊の図柄、

請求の範囲

- [請求項1] 第1吸収性物品、及び、前記第1吸収性物品を収容する第1袋体を備える第1パッケージと、
- 前記第1吸収性物品とは製品形態が異なる第2吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品を収容する第2袋体を備える第2パッケージと、を有するパッケージ群であって、
- 前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品は、共通する機能剤、及び、共通する図柄のうちの少なくとも一方を有し、
- 前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、同一のブランド名、及び、同一のサブブランド名を有し、
- 前記第1袋体の外観と、前記第2袋体の外観とが、異なることを特徴とするパッケージ群。
- [請求項2] 請求項1に記載のパッケージ群であって、
- 前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、同色の領域を有することを特徴とするパッケージ群。
- [請求項3] 請求項1又は2に記載のパッケージ群であって、
- 前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品は、前記共通する機能剤を有し、
- 前記第1吸収性物品は、第1低機能吸収性物品と、前記第1低機能吸収性物品に比べて前記機能剤の配置量が多い第1高機能吸収性物品とを有し、
- 前記第1低機能吸収性物品を収容する第3袋体、及び、前記第1高機能吸収性物品を収容する第4袋体は、外観は同じであるが、異色の領域を有することを特徴とするパッケージ群。
- [請求項4] 請求項3に記載のパッケージ群であって、
- 前記第2吸収性物品は、第2低機能吸収性物品と、前記第2低機能吸収性物品に比べて前記機能剤の配置量が多い第2高機能吸収性物品とを有し、

前記第 1 低機能吸収性物品を収容する前記第 3 袋体、及び、前記第 2 低機能吸収性物品を収容する第 5 袋体は、外観は異なるが、同色の領域を有し、

前記第 1 高機能吸収性物品を収容する前記第 4 袋体、及び、前記第 2 高機能吸収性物品を収容する第 6 袋体は、外観は異なるが、同色の領域を有することを特徴とするパッケージ群。

[請求項5] 請求項 1 から 4 の何れか 1 項に記載のパッケージ群であって、
前記第 1 袋体、及び、前記第 2 袋体は、

前記第 1 吸収性物品及び前記第 2 吸収性物品に関する情報を有する Web ページにアクセスすることと、

前記パッケージ群を販売する Web ページにアクセスすることと、

複数の前記第 1 パッケージ及び複数の前記第 2 パッケージを個別に識別することと、のうちの少なくとも 1 つが可能な QR コードを有していることを特徴とするパッケージ群。

[請求項6] 請求項 1 から 5 の何れか 1 項に記載のパッケージ群であって、
前記第 1 吸収性物品、及び、前記第 2 吸収性物品は、前記共通する機能剤を有し、

前記第 1 吸収性物品を個別に包装する包装材は、前記第 1 袋体に比べて前記機能剤の揮発を抑制することができ、

前記第 2 袋体は、前記第 2 吸収性物品を個別に包装する包装材に比べて前記機能剤の揮発を抑制することができ、かつ、前記第 2 袋体の開封後に再封止可能な封止部を有することを特徴とするパッケージ群。

[請求項7] 請求項 6 に記載のパッケージ群であって、

前記第 1 袋体が収容する第 1 吸収性物品の数に比べて、前記第 2 袋体が収容する第 2 吸収性物品の数の方が少ないことを特徴とするパッケージ群。

- [請求項8] 請求項6又は7に記載のパッケージ群であって、
前記第1吸収性物品は、着用者が下着に貼付して使用するパッド型の吸収性物品であり、
前記第2吸収性物品は、着用者がはいて使用するパンツ型の吸収性物品であることを特徴とするパッケージ群。
- [請求項9] 請求項6又は7に記載のパッケージ群であって、
前記第1吸収性物品は、昼用の吸収性物品であり、
前記第2吸収性物品は、夜用の吸収性物品であることを特徴とするパッケージ群。
- [請求項10] 請求項1から9の何れか1項に記載のパッケージ群であって、
前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、共通する第1図柄を有し、
前記第1図柄は、動物図柄、キャラクター図柄、及び、前記共通する機能剤の機能を想起させる想起図柄のうちの少なくとも1つを有することを特徴とするパッケージ群。
- [請求項11] 請求項10に記載のパッケージ群であって、
前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品の少なくとも一方は、前記第1図柄と共通する図柄であって、前記少なくとも一方の吸収性物品の非肌面側から視認可能な第2図柄を有することを特徴とするパッケージ群。
- [請求項12] 請求項10又は11に記載のパッケージ群であって、
前記第1吸収性物品、及び、前記第2吸収性物品の少なくとも一方は、前記第1図柄と共通する図柄であって、前記少なくとも一方の吸収性物品の肌面側から視認可能な第3図柄を有することを特徴とするパッケージ群。
- [請求項13] 請求項10から12の何れか1項に記載のパッケージ群であって、
前記第1袋体は、前記第1吸収性物品を示す第1製品図柄を有し、
前記第2袋体は、前記第2吸収性物品を示す第2製品図柄を有し、
前記第1袋体が有する前記第1図柄の面積は、前記第1製品図柄の

面積よりも大きく、

前記第2袋体が有する前記第1図柄の面積は、前記第2製品図柄の面積よりも大きいことを特徴とするパッケージ群。

[請求項14]

請求項10から13の何れか1項に記載のパッケージ群であって、

前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、上下方向、及び、左右方向を有し、

前記第1図柄は、前記動物図柄、又は、前記キャラクター図柄を有し、

前記第1袋体は、前記第1吸収性物品を示す第1製品図柄を有し、

前記第2袋体は、前記第2吸収性物品を示す第2製品図柄を有し、

前記第1製品図柄、及び、前記第2製品図柄は、前記第1図柄の重心位置よりも下方に配置されていることを特徴とするパッケージ群。

[請求項15]

請求項10から14の何れか1項に記載のパッケージ群であって、

前記第1吸収性物品は、着用者が下着に貼付して使用するパッド型の吸収性物品であり、

前記第2吸収性物品は、着用者がはいて使用するパンツ型の吸収性物品であり、

前記第1袋体に比べて、前記第2袋体の方が、前記第1図柄の面積を正面の面積で除した値が大きいことを特徴とするパッケージ群。

[請求項16]

請求項1から15の何れか1項に記載のパッケージ群であって、

前記第1袋体、及び、前記第2袋体は、上下方向、及び、左右方向を有し、

前記第1吸収性物品は、着用者が下着に貼付して使用するパッド型の吸収性物品であり、

前記第2吸収性物品は、着用者がはいて使用するパンツ型の吸収性物品であり、

前記第1袋体の方が、前記第2袋体に比べて、前記上下方向の長さを前記左右方向の長さで除した値が大きいことを特徴とするパッケー

ジ群。

[請求項17] 請求項10から15の何れか1項に記載のパッケージ群の広告媒体であって、

前記パッケージ群を陳列する什器に設置可能な広告媒体と、Web上において前記パッケージ群を広告する広告媒体と、のうちの少なくとも一方は、前記第1図柄と共通する図柄を有することを特徴とする広告媒体。

[請求項18] 請求項1から16の何れか1項に記載のパッケージ群の陳列方法であって、

前記パッケージ群を陳列する什器は、上下方向、及び、左右方向を有し、

前記上下方向における前記第1パッケージと前記第2パッケージの間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、前記上下方向に前記第1パッケージと前記第2パッケージを並べる、又は、

前記左右方向における前記第1パッケージと前記第2パッケージの間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、前記左右方向に前記第1パッケージと前記第2パッケージを並べることを特徴とするパッケージ群の陳列方法。

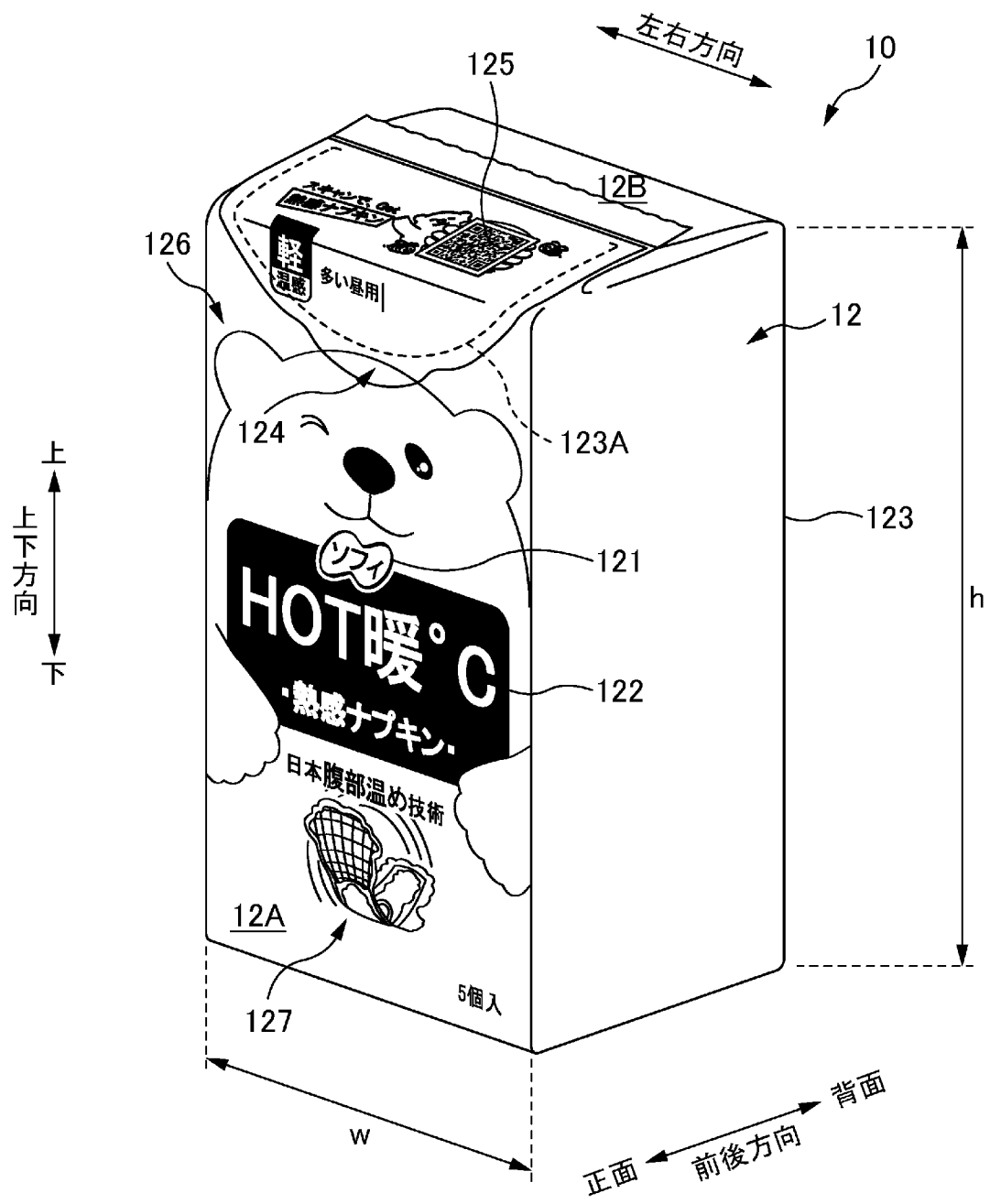
[請求項19] 請求項1から16の何れか1項に記載のパッケージ群を陳列する什器であって、

前記什器は、上下方向、及び、左右方向を有し、

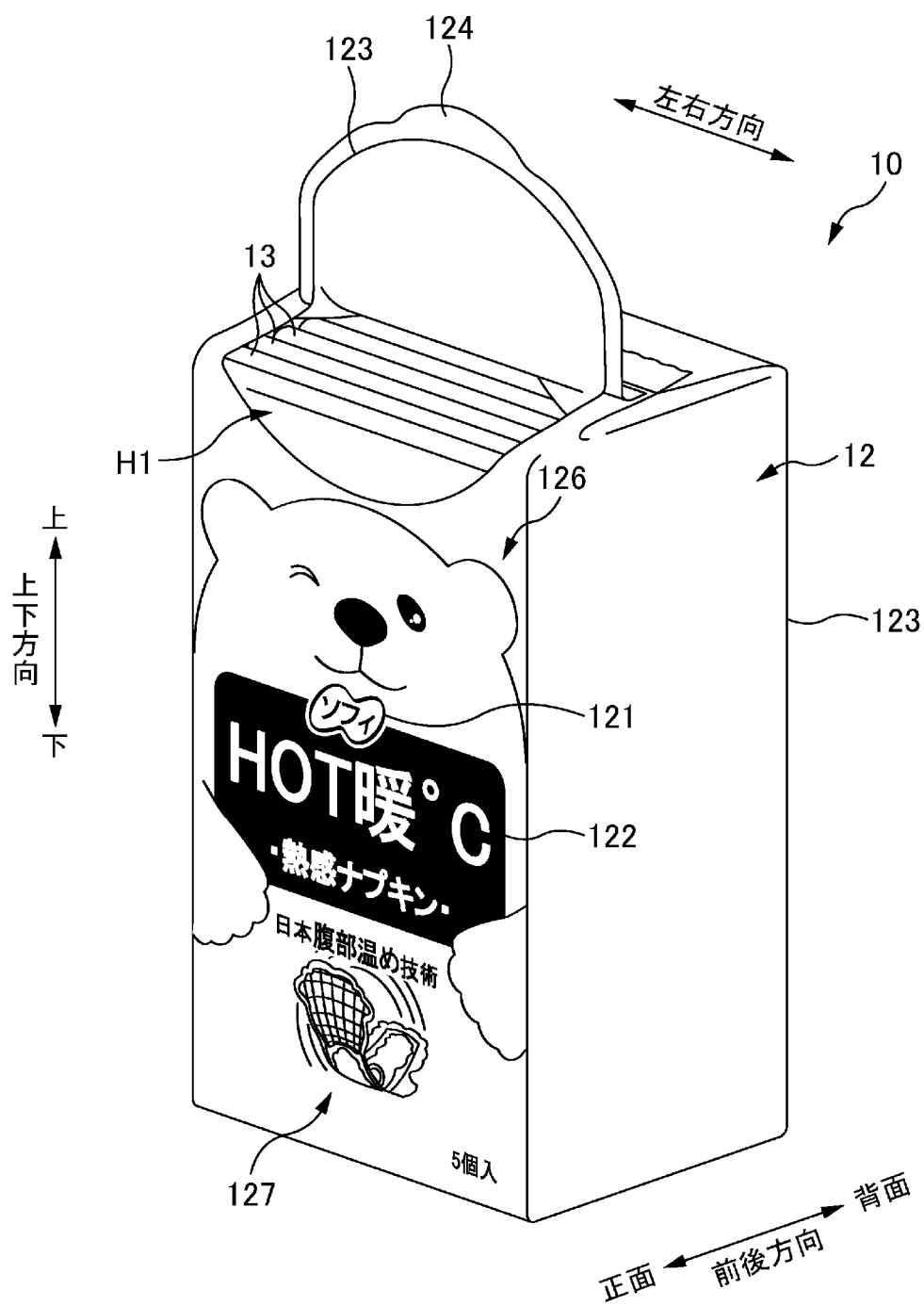
前記上下方向における前記第1パッケージと前記第2パッケージの間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、前記上下方向に前記第1パッケージと前記第2パッケージが並べられる、又は、

前記左右方向における前記第1パッケージと前記第2パッケージの間に別の吸収性物品のパッケージを陳列することなく、前記左右方向に前記第1パッケージと前記第2パッケージが並べられることを特徴とする什器。

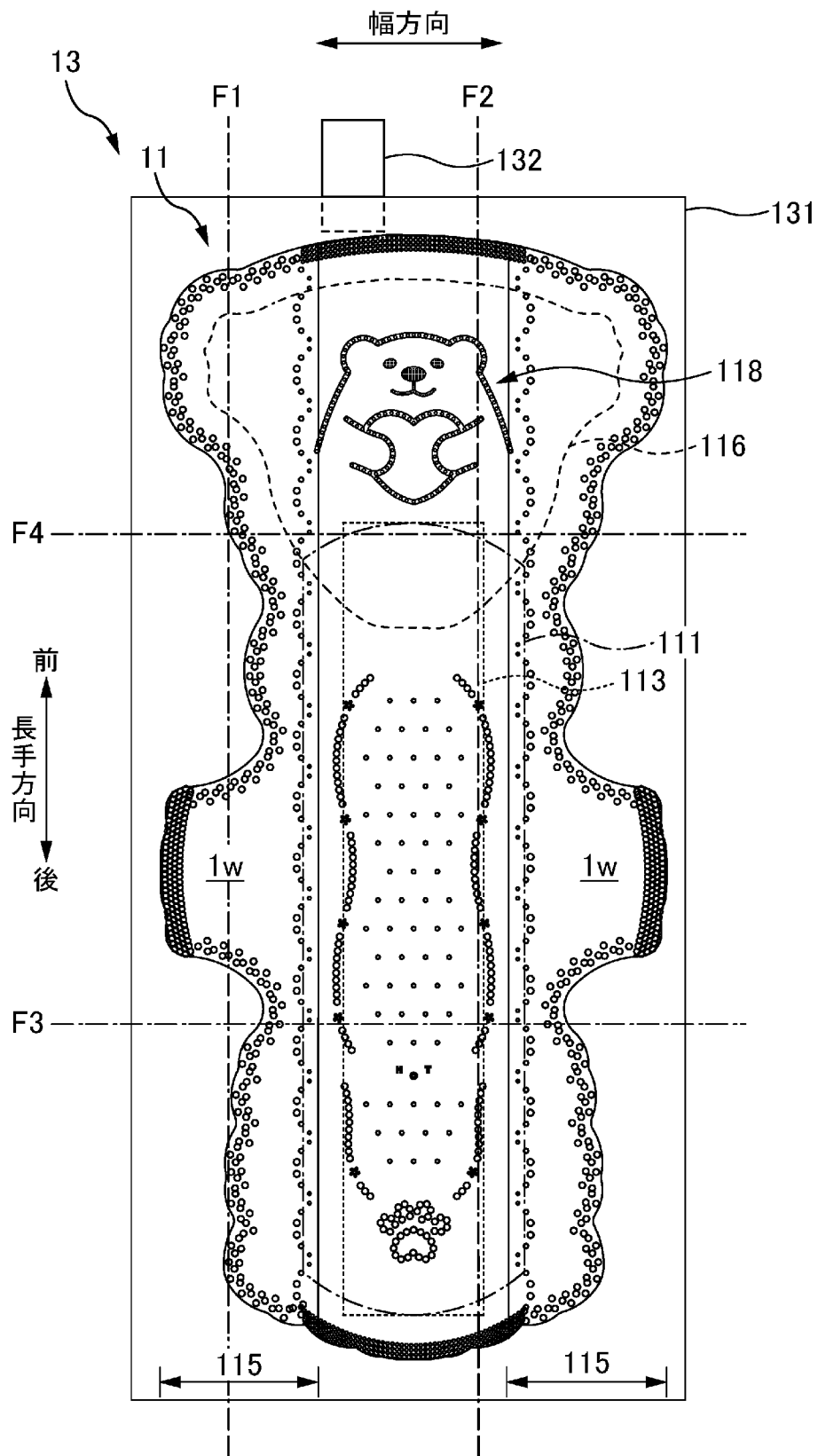
[図1]



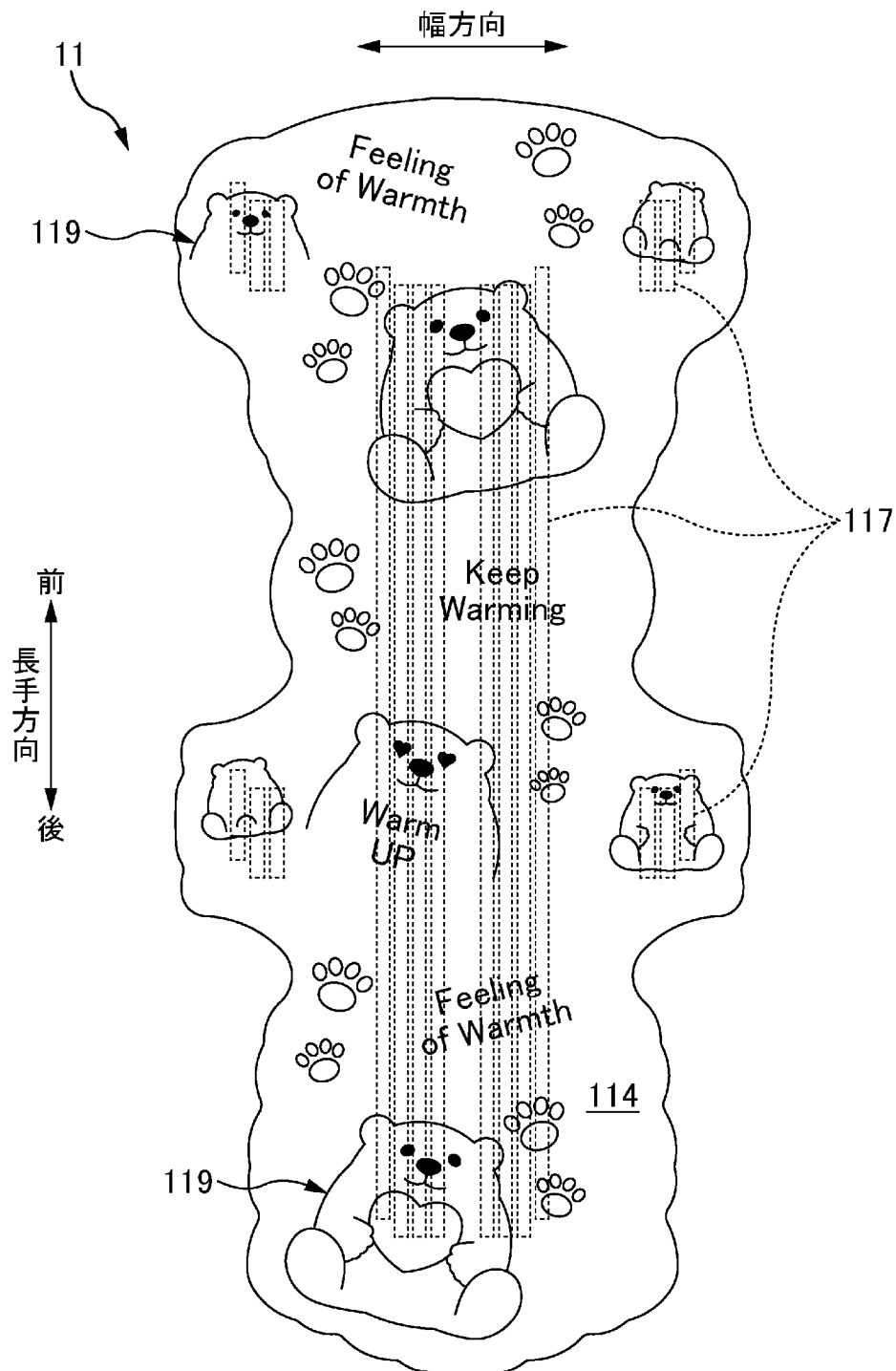
[図2]



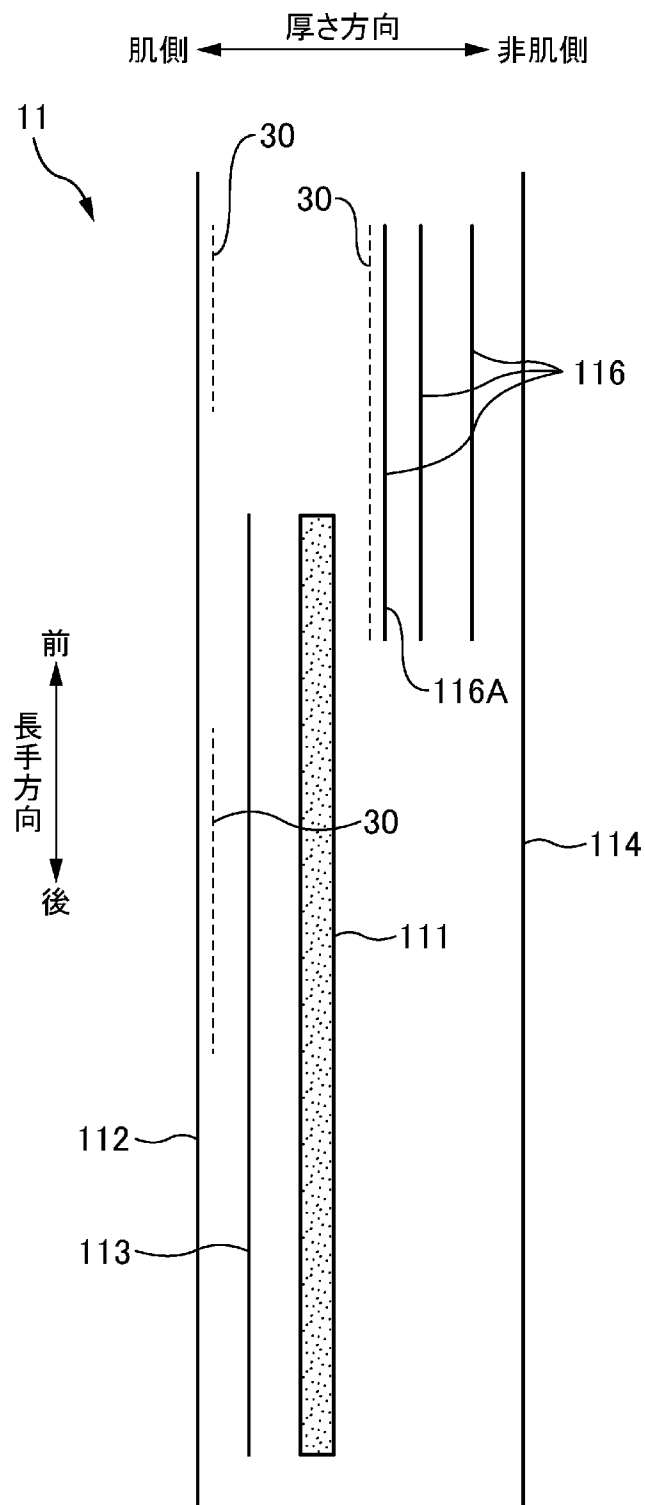
[図3]



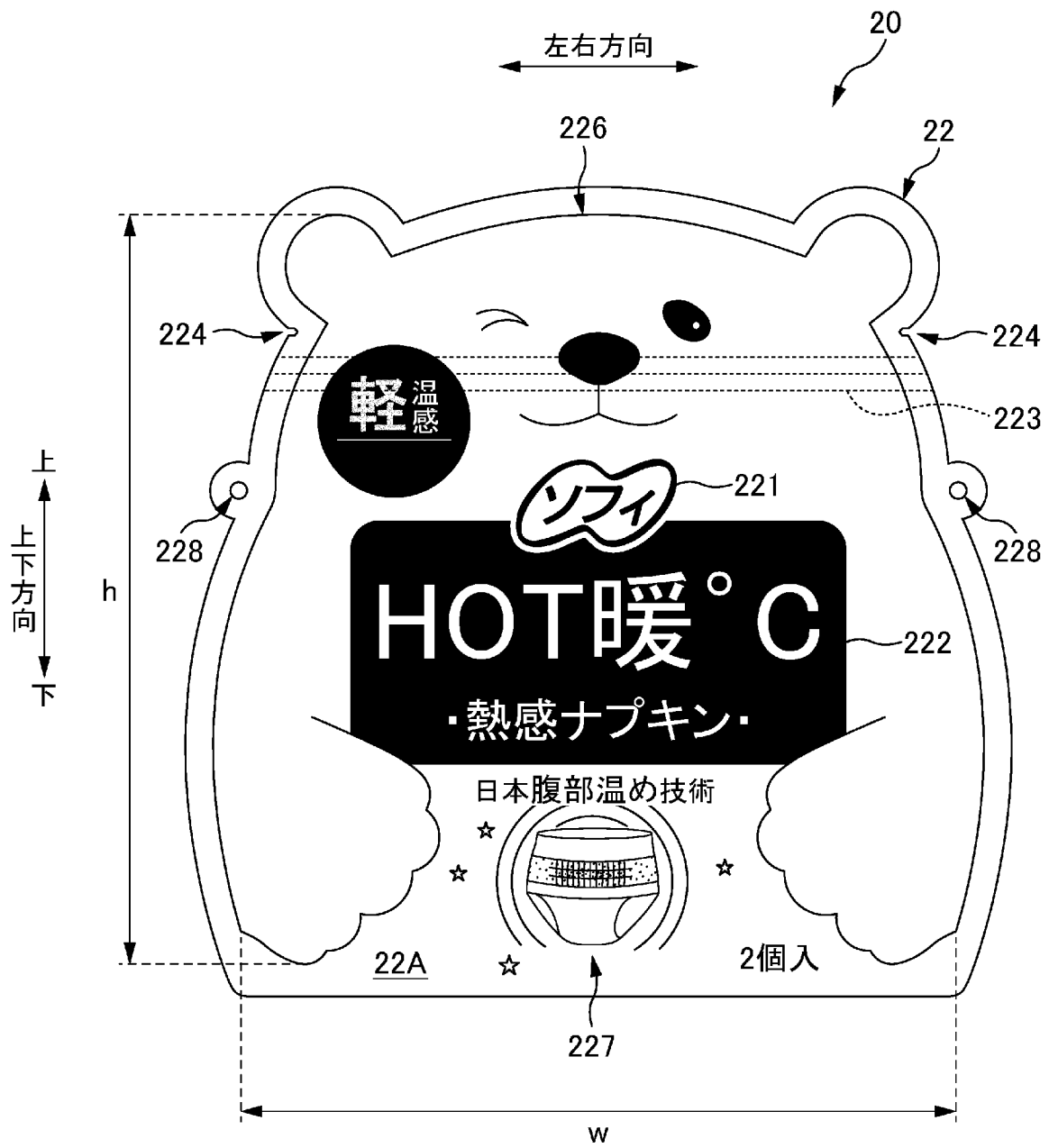
[図4]



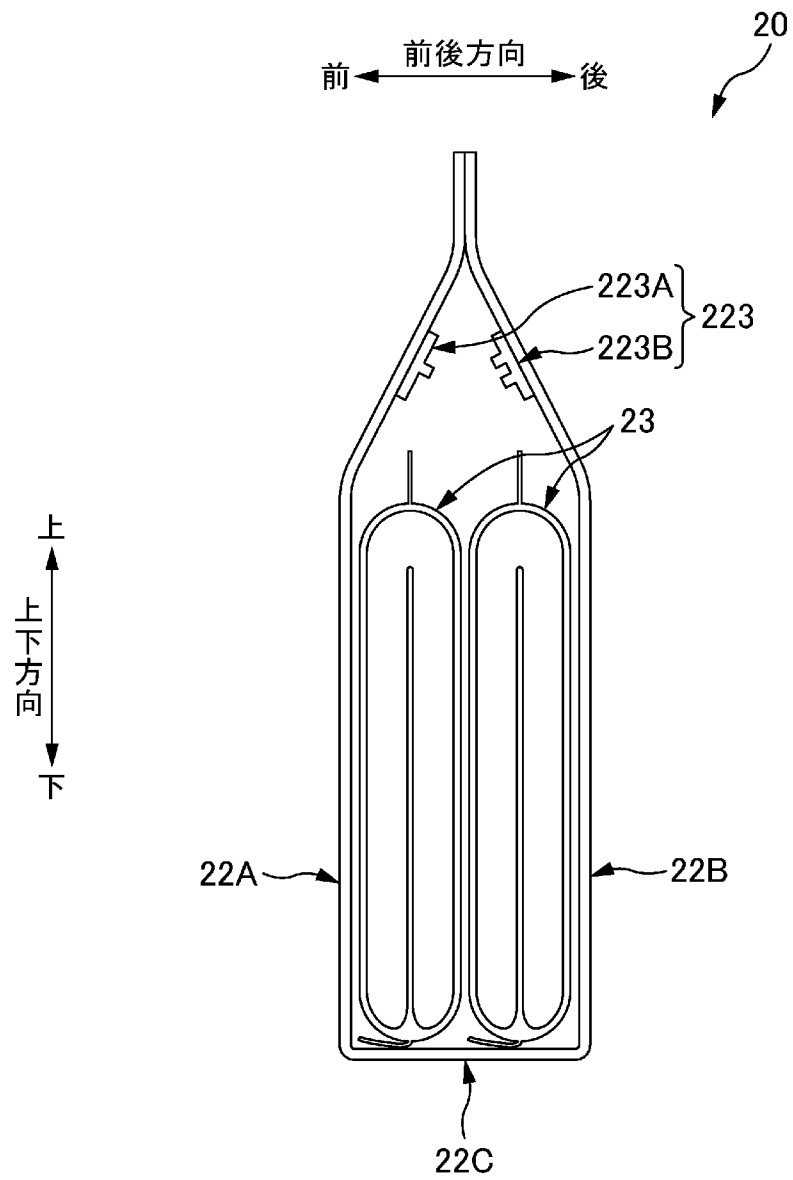
[図5]



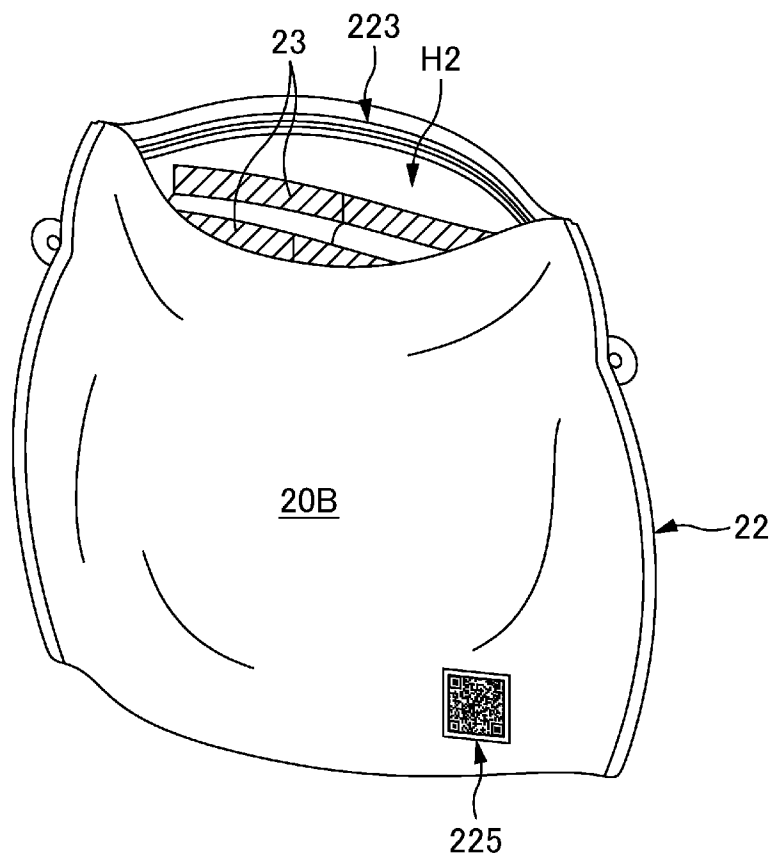
[図6]



[図7]



[図8]



[図9]

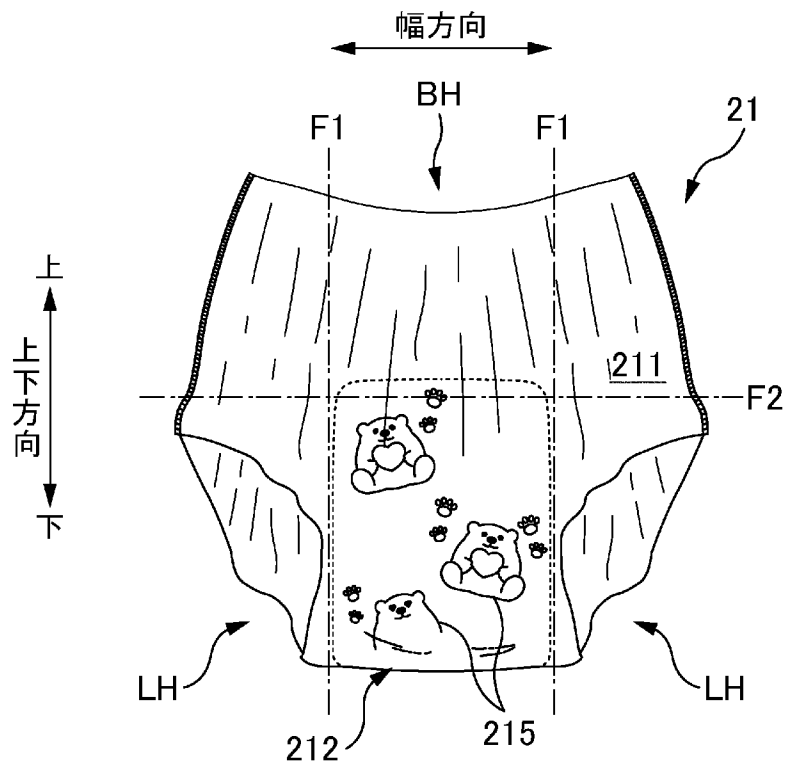


図9A

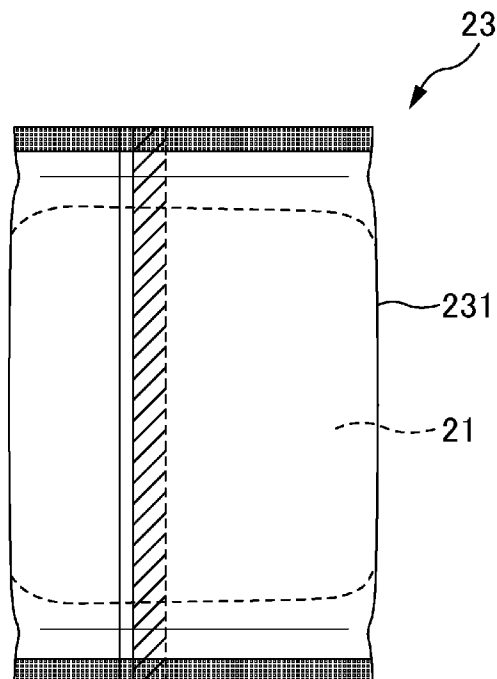
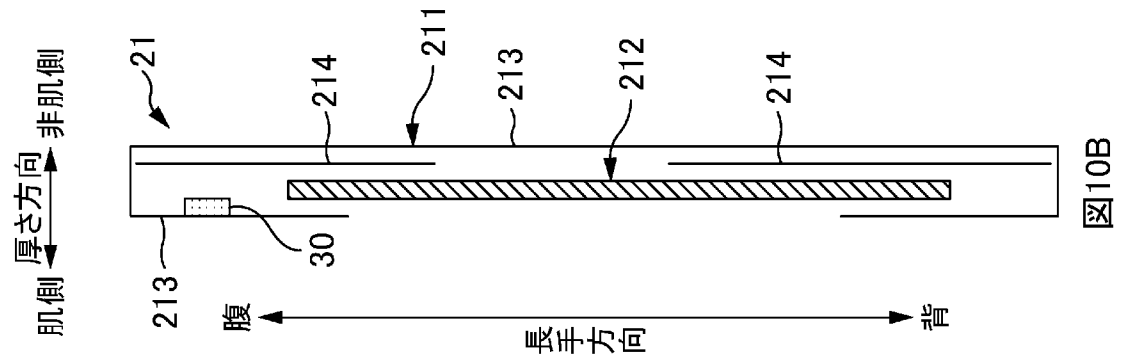
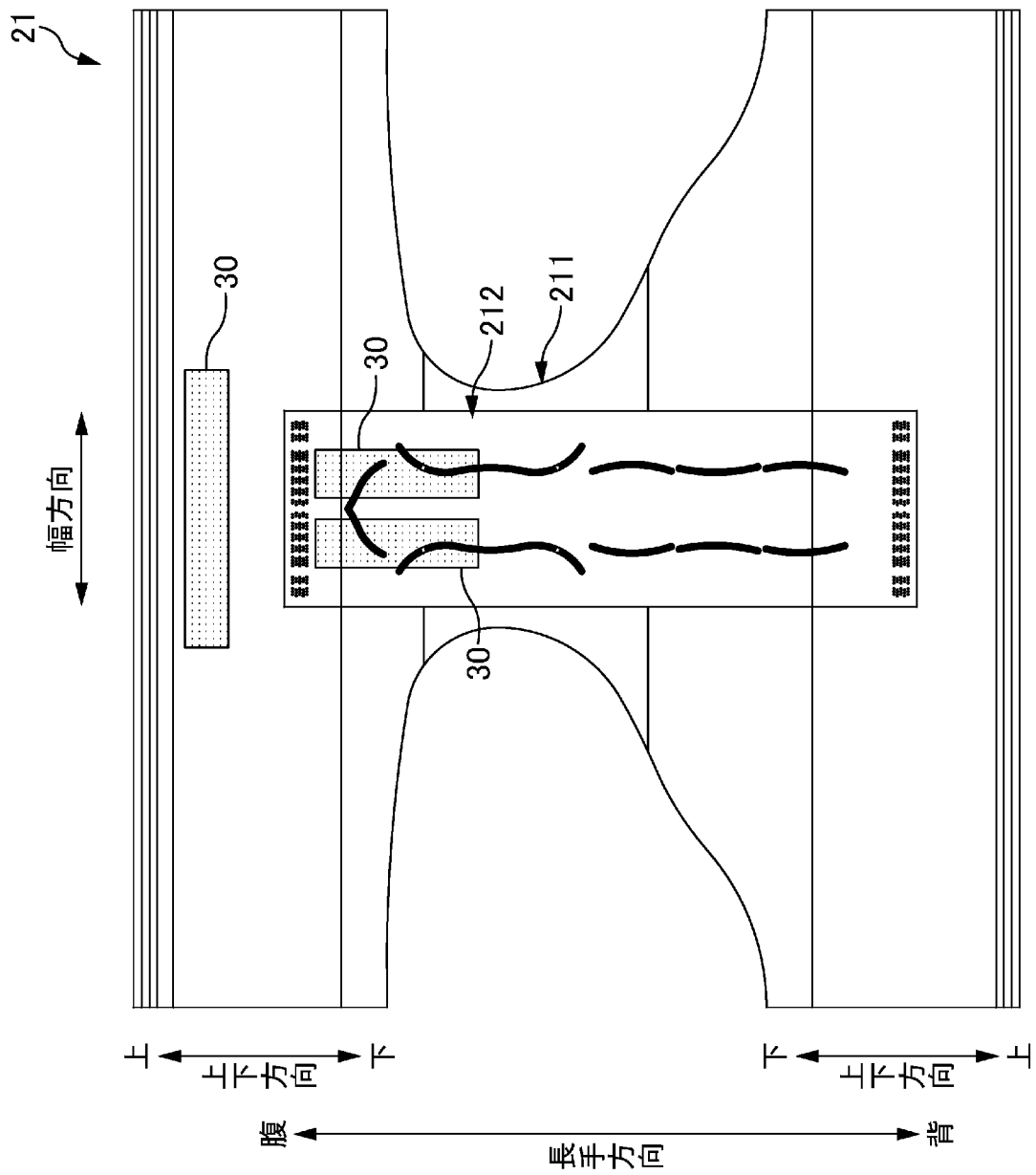


図9B

[図10]



[図11]

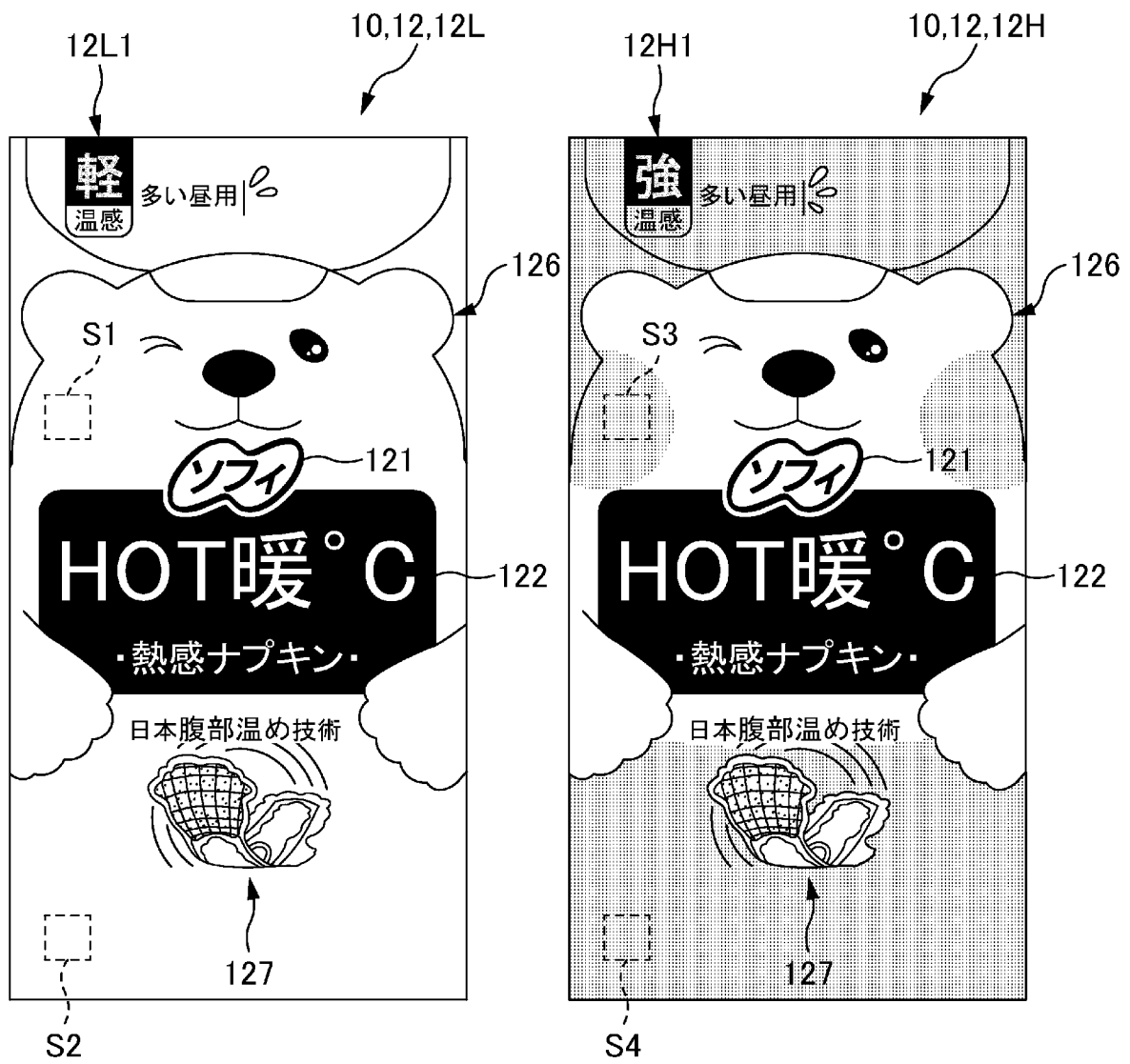


図11A

図11B

[図12]

図12A

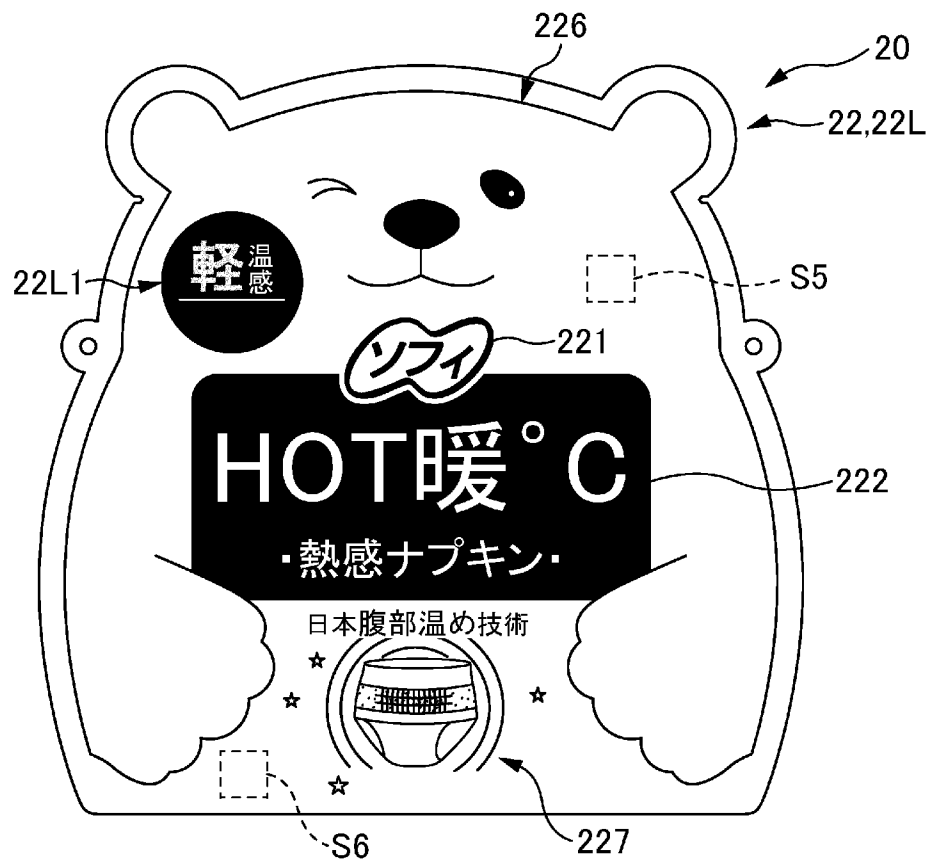
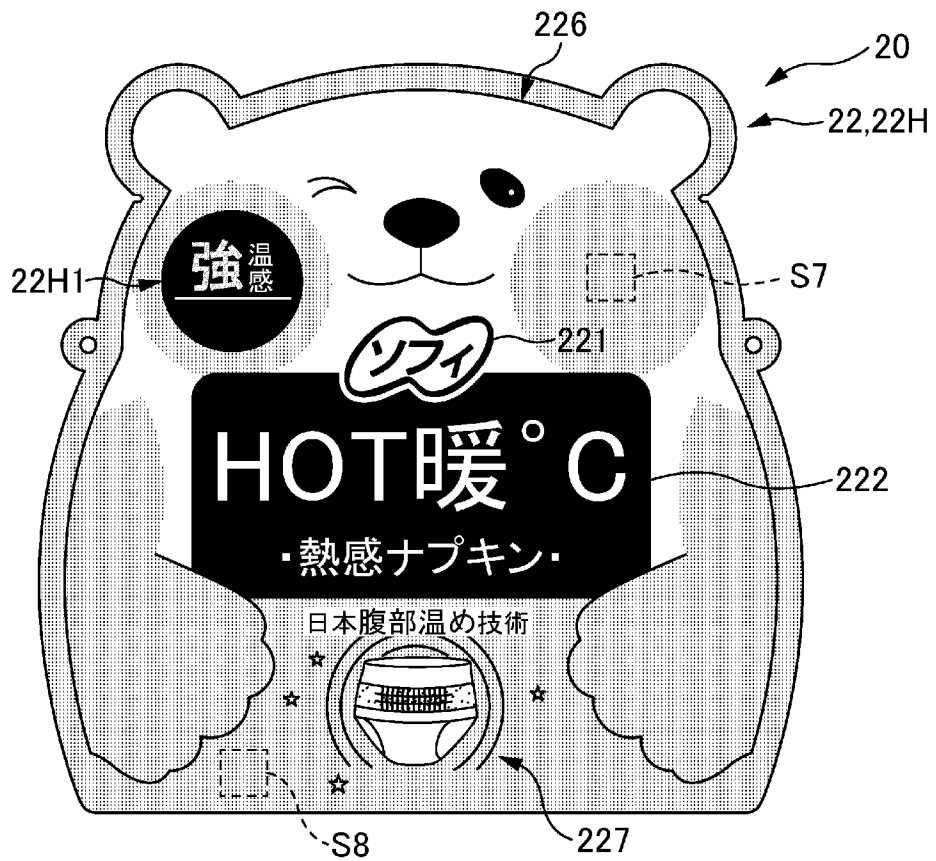
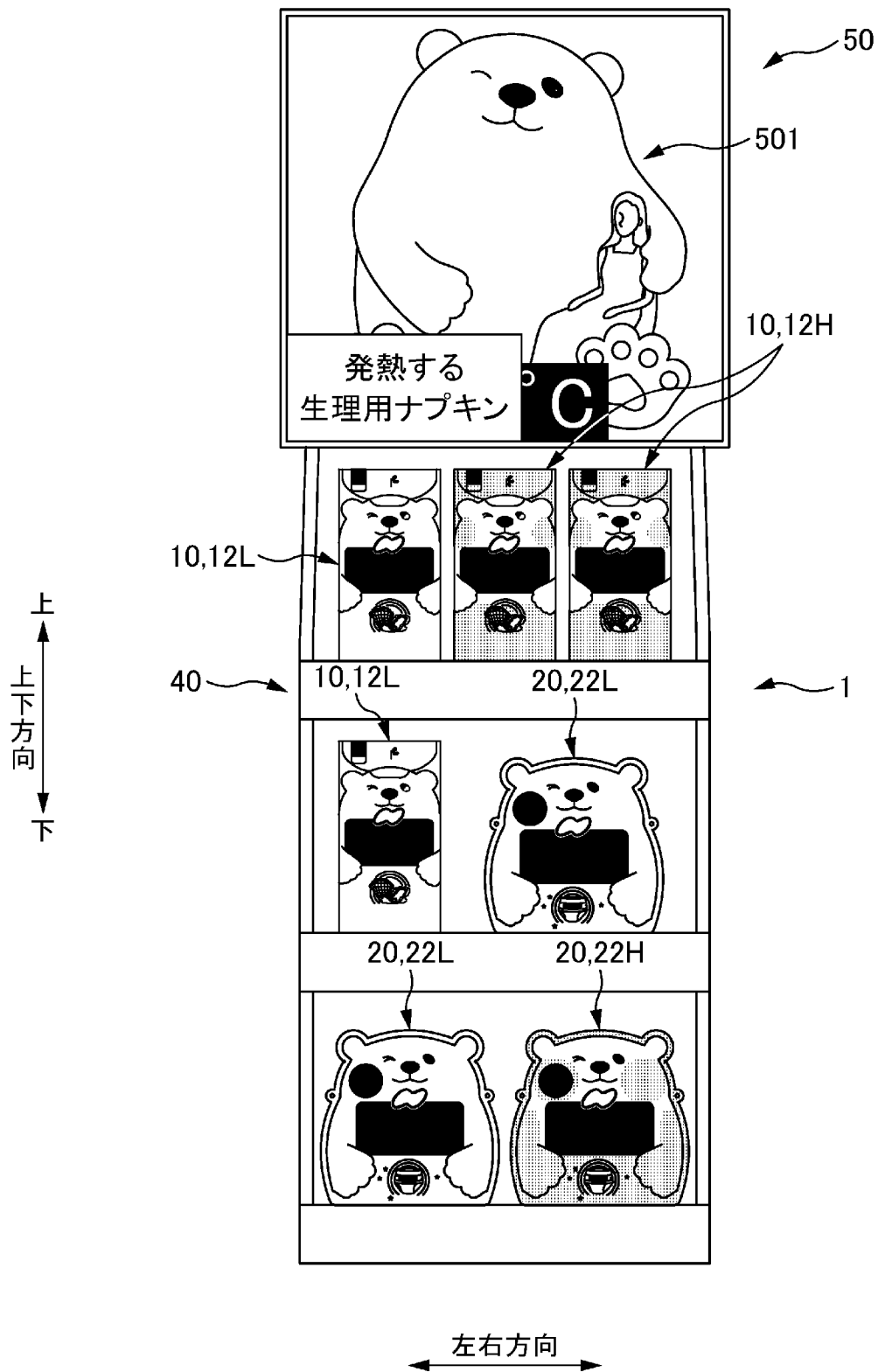


図12B



[図13]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2021/025127

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

B65D 85/07(2017.01)i; A61F 13/15(2006.01)i
FI: B65D85/07; A61F13/15 210; A61F13/15 220

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

B65D85/07; A61F13/15

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2021
Registered utility model specifications of Japan	1996-2021
Published registered utility model applications of Japan	1994-2021

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	US 2011/0284487 A1 (BETTS, Tysonn Yuievonn) 24 November 2011 (2011-11-24) paragraphs [0006], [0018]-[0037], fig. 1	1-19
Y	WO 2020/009089 A1 (UNI-CHARM CORP.) 09 January 2020 (2020-01-09) paragraphs [0009]-[0115], fig. 1-9	1-19
Y	JP 2008-522770 A (THE PROCTER & GAMBLE COMPANY) 03 July 2008 (2008-07-03) paragraphs [0055]-[0064], fig. 11-17	1-19
Y	WO 2012/073960 A1 (UNI-CHARM CORP.) 07 June 2012 (2012-06-07) paragraphs [0010]-[0027], [0043]-[0052], fig. 1, 6-7	1-19



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
 "A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
 "E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
 "L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
 "O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
 "P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
 "X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
 "Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
 "&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
27 August 2021 (27.08.2021)

Date of mailing of the international search report
07 September 2021 (07.09.2021)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2021/025127

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	WO 2012/073961 A1 (UNI-CHARM CORP.) 07 June 2012 (2012-06-07) paragraphs [0008]-[0024], [0039], fig. 1-2, 8	3-19
Y	JP 2019-088344 A (UNI-CHARM CORP.) 13 June 2019 (2019-06-13) paragraphs [0070]-[0072], fig. 4-6	5-19
Y	JP 2009-096474 A (OJI NEPIA CO., LTD.) 07 May 2009 (2009-05-07) paragraphs [0021], [0026], [0040]-[0042], fig. 1-6	5-19
Y	JP 2017-074959 A (UNI-CHARM CORP.) 20 April 2017 (2017-04-20) paragraphs [0035]-[0041], fig. 1-3	6-19
Y	JP 2003-230595 A (KUNISHIGE, Keiko) 19 August 2003 (2003-08-19) paragraph [0019], fig. 1-4	8, 10-19
Y	JP 2018-100130 A (UNI-CHARM CORP.) 28 June 2018 (2018-06-28) paragraphs [0057]-[0061], [0105], fig. 8, 11	10-19
Y	JP 2005-168819 A (PRIMA MEAT PACKERS, LTD.) 30 June 2005 (2005-06-30) paragraphs [0018]-[0033], fig. 1-4	17

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2021/025127

Patent Documents referred in the Report	Publication Date	Patent Family	Publication Date
US 2011/0284487 A1	24 Nov. 2011	US 2009/0261009 A1 US 2008/0128308 A1 US 2008/0128307 A1 EP 1891919 A2 (Family: none)	
WO 2020/009089 A1	09 Jan. 2020	US 2006/0129115 A1	
JP 2008-522770 A	03 Jul. 2008	paragraphs [0073]- [0082], fig. 11-17 WO 2006/066028 A2 CA 2588592 A1 KR 10-2007-0086181 A CN 101374486 A (Family: none)	
WO 2012/073960 A1	07 Jun. 2012	(Family: none)	
WO 2012/073961 A1	07 Jun. 2012	(Family: none)	
JP 2019-088344 A	13 Jun. 2019	(Family: none)	
JP 2009-096474 A	07 May 2009	(Family: none)	
JP 2017-074959 A	20 Apr. 2017	(Family: none)	
JP 2003-230595 A	19 Aug. 2003	(Family: none)	
JP 2018-100130 A	28 Jun. 2018	(Family: none)	
JP 2005-168819 A	30 Jun. 2005	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） B65D 85/07(2017.01)i; A61F 13/15(2006.01)i FI: B65D85/07; A61F13/15 210; A61F13/15 220		
B. 調査を行った分野		
調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） B65D85/07; A61F13/15		
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2021年 日本国実用新案登録公報 1996-2021年 日本国登録実用新案公報 1994-2021年		
国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	US 2011/0284487 A1 (BETTS, Tysonn Yuievonn) 24.11.2011 (2011-11-24) 段落[0006], [0018]-[0037], 図1	1-19
Y	WO 2020/009089 A1 (ユニ・チャーム株式会社) 09.01.2020 (2020-01-09) 段落[0009]-[0115], 図1-9	1-19
Y	JP 2008-522770 A (ザ プロクター アンド ギャンブル カンパニー) 03.07.2008 (2008-07-03) 段落[0055]-[0064], 図11-17	1-19
Y	WO 2012/073960 A1 (ユニ・チャーム株式会社) 07.06.2012 (2012-06-07) 段落[0010]-[0027], [0043]-[0052], 図1, 6-7	1-19
Y	WO 2012/073961 A1 (ユニ・チャーム株式会社) 07.06.2012 (2012-06-07) 段落[0008]-[0024], [0039], 図1-2, 8	3-19
Y	JP 2019-088344 A (ユニ・チャーム株式会社) 13.06.2019 (2019-06-13) 段落[0070]-[0072], 図4-6	5-19
Y	JP 2009-096474 A (王子ネピア株式会社) 07.05.2009 (2009-05-07) 段落[0021], [0026], [0040]-[0042], 図1-6	5-19
☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献 “T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献		
国際調査を完了した日 27.08.2021		国際調査報告の発送日 07.09.2021
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		権限のある職員（特許庁審査官） 内田 栄李 3N 1142 電話番号 03-3581-1101 内線 3361

C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリ*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2017-074959 A (ユニ・チャーム株式会社) 20.04.2017 (2017 - 04 - 20) 段落[0035]-[0041], 図1-3	6-19
Y	JP 2003-230595 A (國重 恵子) 19.08.2003 (2003 - 08 - 19) 段落[0019], 図1-4	8, 10-19
Y	JP 2018-100130 A (ユニ・チャーム株式会社) 28.06.2018 (2018 - 06 - 28) 段落[0057]-[0061], [0105], 図8, 11	10-19
Y	JP 2005-168819 A (プリマハム株式会社) 30.06.2005 (2005 - 06 - 30) 段落[0018]-[0033], 図1-4	17

国際調査報告
 パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2021/025127

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
US	2011/0284487	A1	24.11.2011	US 2009/0261009 A1	
				US 2008/0128308 A1	
				US 2008/0128307 A1	
				EP 1891919 A2	
WO	2020/009089	A1	09.01.2020	(ファミリーなし)	
JP	2008-522770	A	03.07.2008	US 2006/0129115 A1	
				段落[0073]-[0082], 図11-17	
				WO 2006/066028 A2	
				CA 2588592 A1	
				KR 10-2007-0086181 A	
				CN 101374486 A	
WO	2012/073960	A1	07.06.2012	(ファミリーなし)	
WO	2012/073961	A1	07.06.2012	(ファミリーなし)	
JP	2019-088344	A	13.06.2019	(ファミリーなし)	
JP	2009-096474	A	07.05.2009	(ファミリーなし)	
JP	2017-074959	A	20.04.2017	(ファミリーなし)	
JP	2003-230595	A	19.08.2003	(ファミリーなし)	
JP	2018-100130	A	28.06.2018	(ファミリーなし)	
JP	2005-168819	A	30.06.2005	(ファミリーなし)	